

目 次

第1章 『観音寺子どもすくすくプラン』の基本的な考え方

- 1 乳幼児期における保育・教育の重要性
- 2 子どもの発達や学びの連続性を踏まえた保育・教育の充実に向けて
- 3 『観音寺子どもすくすくプラン』の基本的な考え方
 - (1) 基本理念
 - (2) めざす観音寺の子ども像 ～就学前教育修了時の姿として～
 - (3) 各視点の内容
- 4 『観音寺子どもすくすくプラン』実践上の重点事項及び体系図
 - (1) 保育所・幼稚園の役割 –めざす子ども像にせまる保育・教育の充実–
 - (2) 家庭に向けて –温かく強い絆で結ばれた親子関係づくりへの支援–
 - (3) 地域社会に向けて –地域にふれ、地域が好きになる活動の充実–
- 5 観音寺の子どもたちのために大切にしたい活動
 - (1) 特別支援教育の充実に向けて
 - (2) 「観音寺子ども読書の街づくり」の充実に向けて
 - (3) 食育の充実に向けて

第2章 『観音寺子どもすくすくプラン』保育・教育課程

- 1 保育・教育課程の見方
- 2 観音寺子どもすくすくプラン【視点別】保育・教育課程
- 3 観音寺子どもすくすくプラン【年齢別】保育・教育課程

第3章 小学校入学期の各教科等における指導

- 1 各教科等における指導のポイント
- 2 入学期における各教科等の指導例
- 3 入学期の日常生活における指導

第4章 参考資料

- 1 保育所保育指針と幼稚園教育要領との比較対照表
- 2 小学校学習指導要領（第1学年のみ）
- 3 参考文献

第1章

『観音寺子どもすくすくプラン』の基本的な考え方

1 乳幼児期における保育・教育の重要性

乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。保護者をはじめとする大人や同年齢期の子どもとの生活や遊び等の直接的・具体的な体験を通して、子どもたちは情緒や知性を発達させ、社会性を涵養し、人として、社会の一員として、よりよく生きるための基礎を獲得していきます。

また、この時期には、人間関係の面でも、日々急速に成長する時期でもあります。そのために、この時期に必要な経験を積み重ねておくことは、将来、一人の人間として充実した生活を送る上で、大変重要なこととなります。

したがって、私たち大人は、乳幼児期にある子どもたちにとっての「今」が心地よく、幸せであることを保育や教育の目標とするとともに、「未来」を見据えて生きる力の基礎を培うことをめざすことが重要です。それは、生涯、発達し続けていく一人ひとりの子どもの可能性や後伸びする力を信じることであり、子どもの現在と未来をつなげる営みと言えるでしょう。

2 子どもの発達や学びの連続性を踏まえた保育・教育の充実に向けて

現在、市内の保育所では、保育所保育指針に基づいて養護と教育を一体とした保育が、幼稚園では幼稚園教育要領に基づいた教育が行われています。また、保育所保育指針のうち、3歳以上の幼児の教育内容については、幼稚園教育要領との整合性を保ちながら定められています。このような保育・教育では、子どもの発達の特性に照らして、自発的な活動としての遊びを中心にした生活を通して環境を構成し、個の育ちに応じた総合的な教育を行っています。また、小学校では時間割を設定し、学習指導要領に基づき、教科書等の教材を用いて各教科等の学習をしています。

このように保育所や幼稚園と小学校とでは、子どもの生活の仕方や教育の内容・方法、さらには発達のとらえや信頼関係づくり等にも違いが見られ、これらに対応することが難しい子どもの姿も見受けられます。これらが「小1プロブレム」と言われる小学校第1学年における児童の不適応状況の要因の一つになっているとも考えられます。

そのため、小学校への就学に向けては、なめらかに接続していけるような乳幼児期の保育・教育の在り方が大切になります。

3 『観音寺子どもすくすくプラン』の基本的な考え方

本プランは、乳幼児期の発達の特徴をとらえた保育・教育の充実となるよう市内に住む子どもたちが、保育所や幼稚園、一体化施設等いずれの施設に在籍しても、質の高い保育・教育を等しく受けられることをめざして、各保育所・幼稚園が取り組む方向性を示すものです。

本プランの下で、各保育所・幼稚園・小学校が地域や学校等の特性を生かしながら、豊かな感性と健やかな体を養い、生きる力の基礎を培う保育・教育が実践されることを願い、理念と方策を作成しました。

(1) 基本理念

すくすく のびのび 元気いっぱい 観音寺っ子
～ 未来につなぐ 生きる力をはぐくむ ～

本市に住む子どもたちが心身ともに健やかに成長し、周囲の温かい支えの中で自己ののびのびと表現し確立していくことで、一人の人間としての真の「生きる力」を育てていきたい。その力が未来に向けて永遠に息づくためにも、遊びや生活を通して今を充実させ、子どもたちが主体的に生きていくこと、そして、地域を、さらにはふるさとを支え愛する心情を折り重ねながら育てていくことが大切であると考え、このような理念を設定しました。

(2) めざす観音寺の子ども像 ～就学前教育修了時の姿として～

平成8年7月の中央教育審議会の答申において、変化が激しく、先行きが不透明で、厳しい時代の社会を担う子どもたちに必要な生きる力として、大きく「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」という3点が示されました。

この理念は現在においても保育・教育の場で重要視されており、多くの専門的な保育者方をはじめ、学校や幼稚園・保育所で共通理解されています。

本プランでは、小学校教育との接続を見据えて、乳幼児期の子どもに生きる力の基礎を培うことを目標としています。この点を踏まえ、生きる力の基礎を「確かな学力につながる『学びの芽生え』」「豊かな心につながる『人とのかかわり』」「健やかな体につながる『元気な体』」という3点ととらえ、それぞれにめざす子ども像を策定し、保育・教育にあたるようにしたいと考えました。

そして、この3点を表す象徴的な言葉として、本市の名称にもなぞらえて「感」「温」「自」とし、めざす姿を次のように設定しました。

学びの芽生え

人とのかかわり

元気な体

かん

感

じたり
考えたりしながら
ねばり強くやってみる
子ども

【培われる力は…】

感性 表現力 探究心
思考力 注意力 観察力
好奇心 等

おん

温

かい気持ちで
自分に自信をもち
友だちを思いやる
子ども

【培われる力は…】

思いやり ゆずり合い
自主性 道徳心 協同性
コミュニケーション力
社会性 等

じ

自

ら体を動かして
元気いっぱい
友だちと遊びこむ
子ども

【培われる力は…】

基本的な生活習慣 体力
健全な生活リズム 食育
自己発揮 調整力
挑戦への意欲 等

(3) 各視点の内容

感じたり 考えたりしながら ねばり強く やってみる子ども ～学びの芽生え～

子どもたちが「人」「もの」「こと」等、思わずかかわりたくなるような環境に魅力を感じて、自発的・意欲的にかかわり、考えたり工夫したりしながら展開していくことは、小学校以降の学びの基礎を培うものです。ここでは、心を揺さぶられるような感動体験ができるような環境を構成し、一人ひとりの力が十分発揮できるよう、保育・教育を展開していくことが大切です。

幼児期において、一つの目的をもって展開されている遊びが、ある子どもの気付きによって工夫され発展することがあります。このようなことは、その時点でもっている技能や知識を最大限に駆使し、遊びをより面白い方向へ転換させようと目の前の環境にアプローチしている姿であり、「思考力」の芽生えであると言えます。保育者が、こうした姿を認め、応援することで子どもの力は大きく伸びていくのです。



【みつけた！】

温かい気持ちで 自分に自信をもち 友だちを思いやる子ども ～人とのかかわり～

生きる力とは、“人が人とかかわって” 生きる力とも言えます。子どもたちは、友だちや保育者、家庭や地域、保護者等、多くの人とかかわる中で、温かく思いやりのあふれた気持ちにふれ、自らの心はもちろん、相手の心も癒されていく体験を重ねることで、人への信頼関係が生まれます。

幼児期には何よりも身近な大人との信頼関係を築くことが必要であり、それを基盤としながら様々なことを自分の力で行う充実感や満足感を味わえるようにすることが大切です。また、友だちや保育者とかかわる中で、自己の存在感や一緒に活動する楽しさを味わい、時には葛藤等を通して、互いを理解し合う体験を重ねながら思いやりやつながり合う気持ち等をもつようにもなります。

このような関係が築かれた集団の中では、自分の思いや考えを伸びやかに表すこともできるようになり、自己存在感や自己有用感等が豊かに育つのです。



【桜の花びら さわれるかな？】

自ら体を動かして 元気いっぱい 友だちと遊びこむ子ども ～元気な体～

平成 24 年 4 月に、幼児期運動指針が示されました。この中では、子どもが運動にふれる機会の拡充が期待されていますが、大切なのは「自ら」体を動かそうとする、体を動かす心地よさを感じようとする意欲であると考えます。社会の変化で子どもたちの遊ぶ場所や機会が減ったといわれますが、生涯にわたって運動に親しむためには、遊びの中で体を動かす心地よさを体感することが必要です。そのためにも体を動かすことに関心を持ち、友だちの刺激を受けながらチャレンジしたくなるような環境を構成することが大切です。

また、元気な体づくりのためには、基本的な生活習慣を身に付けることも大変重要です。特に探究意欲が増し、自分のしたいことに集中し、指先の機能の発達により、できることがどんどん増える乳児期から幼児期にかけて、食事や衣服の着脱、排泄等、身の回りのことを自分でしようとする意欲をはぐくむことは、生涯にわたって健康な体をつくり、守る上でも重要なことです。



【よーい どん！】

4 『観音寺子どもすくすくプラン』実践上の重点事項および体系図

乳幼児は、自分から出発し、様々な人とのかかわりの中で、保護者、家庭、そして保育所や幼稚園、地域社会へと生活の場を広げていきます。保育所や幼稚園で行われる保育や教育は、このような子どもの生活全体を対象に、その生活が充実したものになるよう、保育所や幼稚園が家庭や地域と連携して行われることが大切です。そこで、本プランを進めていく上で、以下のように重点事項を設定し、取り組む視点を体系的に示しました。

重点事項

- 保育所・幼稚園：生きる力の基礎を培う保育・教育の充実
- 家 庭：温かく強い絆で結ばれた親子関係づくりへの支援
- 地 域 社 会：地域の人や文化にふれ、地域が好きになる活動の充実

体系図



保育所・幼稚園

- ☆ めざす子ども像にせまる保育・教育の充実
 - ・ 生きる力の基礎を培う保育・教育の充実
 - ・ 小学校との実質的な連携の推進
 - ・ 人権感覚を育て養う保育・教育の充実



家庭

- ☆ 温かく強い絆で結ばれた親子関係づくりへの支援
 - ・ 子育て支援センター的な役割
 - ・ 保護者同士がかかわる場づくり
 - ・ 保護者としての学びの機会の提供



地域社会

- ☆ 地域にふれ、地域が好きになる活動の充実
 - ・ 地域の子カウを積極的に取り入れた保育・教育の充実
 - ・ 地域に伝わる行事への積極的な参加
 - ・ 地域とかかわる、地域にふれる活動の展開

1) 保育所・幼稚園の役割 ーめざす子ども像にせまる保育・教育の充実ー

生きる力の基礎を培う保育・教育の充実

本プランでは「学びの芽生え」「人とのかかわり」「元気な体」という3点を生きる力の基礎としてとらえています。この点については、これまでも詳述してきたとおりです。本プランの第2章以降には、年齢期ごとにめざす子ども像の具体を示していますが、各保育所や幼稚園の特色を生かした創意工夫した保育・教育課程によって、子どもたちの力をはぐくんでいくことが大切です。

小学校との実質的な連携の推進

近隣の小学校とは、様々な機会を得て、多様な連携の形を探り、実践することが大切です。乳幼児期の子どもにとって、心身ともに成長した小学生は「あこがれ」の存在であり、小学校入学への期待感を大きくするものであります。一方で小学生は、乳幼児期の子どもとふれ合うことで、自分よりも年少の子どもを大切にしようとする気持ちやいたわりをもつ気持ち、他者を思いやる気持ちが育つようになるとともに「頼られ感」や「役立ち感」も生まれ、自尊感情を強めることができます。

また、教師間でもこのような保小・幼小連携によって互いの保育・教育課程を知ることができ、自校種の課程や自らの実践を見つめ直し、よりよいものに高めていくことにもつながっていきます。



【プールでおんぶ たのしいな】

人権感覚を育て養う保育・教育の充実

幼児期は、自他の認識や自意識ははっきりともちにくいものの、他者の存在に気付く時期でもあり、遊びを中心にして友だちとのかかわり合いの中で、社会性の原型ともいえるものを獲得していきます。また、表情から他者の気持ちを理解するようになり、幼児にとっては、生活の場自体が学びの場であり、人権感覚の芽生えの場でもあります。

こうした幼児期の特徴を踏まえて、遊びを中心とする生活の場で、自分を大切にしている感情とともに、他の人のことも思いやれるような社会的共感能力の基礎をはぐくむという視点が必要になります。

(2) 家庭に向けて ー温かく強い絆で結ばれた親子関係づくりへの支援ー

子育て支援センター的な役割

子どもにとって、家庭は信頼感をはぐくみ、安心できる場所でもあります。しかし、近年では様々な社会構造の変化に伴い、子育ての形態や方法も変化し、自らの子育てに不安や悩みを抱える保護者も増えてきています。

本市の保育所や幼稚園では、地域の「子育て支援センター的」な役割を果たし、子育ての楽しさを実感できるような体制を整備することも重視しています。子育ての知識や技術を備えている保育者が、こうした不安や悩みに真摯に向き合い、保護者との信頼関係づくりをめざすとともに、保護者同士が不安や悩みを共有できる場づくりや保護者が子育てを積極的に学び、親として成長できる場を用意する等、積極的に取り組んでいます。

保護者同士がかかわる場づくり

子育てに不安や悩みを感じる保護者にとって、同様の思いを共有することで、子育てに安心したり、自信をもったりすることができます。

保育所や幼稚園は、保護者同士の結び付きの場として、適した環境にあります。送迎の際の時間や参観日等の機会を利用して、保護者同士や保育者との結び付きを生み出し“一緒に”子育てをしていく意識を醸成し、何でも話し合える関係づくりを心がけるとともに、こうした結び付きによって、保護者自身が成長できるよう支援していくことが大切です。

保護者としての学びの機会の提供

子育てに不安や悩みをもつ保護者にとって、保育者や専門家等からの的確なアドバイスは心強く、これまでの子育てに自信をもったり、振り返ったりするきっかけにもなります。

このようなアドバイスは、各施設の職員から受けることが多くなりますが、時には関係機関と連携して、より専門的な方から話を聞ける機会を設け、保護者が主体的に学ぶことのできるようにすることも大切です。

本市の保育所や幼稚園では、様々な機会をとらえてこのような場を設定し、保護者が自信をもって子育てにかかわることができるよう努めるとともに、保育者も学べる場として活用しています。



【保護者対象の講演会の様子】

(3) 地域社会に向けて ー地域にふれ、地域が好きになる活動の充実ー

地域のチカラを積極的に取り入れた保育・教育の充実

本市は、市章にも表現されている豊かな自然があふれ、また、各地域には古くから住む人々や、それらの人々によって大切に伝承されてきた年中行事等が数多く残されており、子どもたちにとって、地域を知り、地域にかかわるようになるきっかけは豊富にあります。このような環境の中での育ちが、故郷を愛し、伝統を受けついでいこうとする地域の一員としての自覚をもつようになります。

本市の保育所や幼稚園では、地域の人々との交流等を通して、地域の資源を生かした保育・教育の充実に努め、地域にふれ、地域が好きになる子どもに育つよう努めています。

地域に伝わる行事への積極的な参加

本市には、各地域に古くから伝わる様々な行事があります。代表的な年中行事ともいえる「ちょうさ祭り」や「銭形祭り」をはじめとして、百々手（ももて）や盆踊り等の行事からは、昔の人の願いや人々のくらしの様子を知ることができます。このような伝統は、各地域において、世代を超えて受け継がれていく中で守り育てられているものでもあります。

本市の保育所や幼稚園でも、お祭りの時期には、子どもたち手作りの、時には地域の方々が作ったちょうさで“おまつりごっこ”が行われる等、様々な行事に合わせて再現したり模倣したりしています。このような活動によって、地域を知り、地域に積極的にかかわる心情を培い、自分も地域の一員である、という自覚が育つようにしています。



【地域の方によるちょうさづくりの様子】

地域とかかわる、地域にふれる活動の展開

本市の保育所や幼稚園の周辺には、多くの自然があふれ、そこに生活する「人」「もの」「こと」とふれ合うことで、子どもたちの豊かな心は、大きく成長しています。

近隣を散歩する中での畑仕事をする人との出会い、園外保育での新しい発見、地域の方を招いての発表会や伝統文化の体験活動等、保育所や幼稚園では、こうした「人」「もの」「こと」を生かした保育・教育の充実に積極的に取り組んでおり、地域を知る、地域が好きになるよう努めています。

5 観音寺の子どもたちのために大切にしたい活動

(1) 特別支援教育の充実に向けて

「特別支援教育」とは、障がいのある幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児・児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、よりよく生活したり学習したりするために、適切な指導及び必要な支援を行うものです。

そのためには、専門的な役割を果たす教職員の研修の充実を図るとともに、子ども一人ひとりの障がいの状態やニーズに応じた支援を計画的・組織的に行い、発達を支えることが必要です。

そこで、本市の保育所や幼稚園では「個別の指導計画」の作成や家庭や関係機関と連携しながら「個別の教育支援計画」を作成し、障がいのある子どもへの専門的な助言や援助を行うことができるようにしています。こうした支援を小学校に円滑に接続し、実効性のあるものにすることが大切です。

サポートファイル「かけはし」について

サポートファイル「かけはし」は、障がいのある子どもを一生にわたって一貫した支援を行うために、教育・福祉・医療・保健・労働等の関係機関が連携しながら作成するファイルです。保護者が管理をし、保護者の要求に応じて、保育所や幼稚園は必要事項を記入することになります。就学前の段階で作成しておくことにより、小学校への円滑な接続や継続的な支援が可能になります。

関係機関との連携について

子どもの行動や発達の様子をつぶさに見ることのできる保育所や幼稚園では、教育や福祉・医療・保健機関と連携しながら、障がいの早期発見・早期対応につなげることも大切です。保健機関のもつ検診結果や医療機関への受診結果等も共有しながら、障がいの早期発見・早期対応につなげることは、当該幼児や家族にとっても、適切な支援となります。

本市では、西讃地域特別支援教育連携推進協議会の中で、ケース会議を開催し、障がいのある子どもの進学に向けて、保育所や幼稚園と小学校とが必要に応じて共に話し合い、支援の在り方を探っています。そこでは、特別支援学校の教員や保健師等にも参加をいただきながら、小学校入学後の支援体制や環境づくりについて話し合うことで、よりよい支援につなげています。

- 1 全体の保育・教育課程とは別に、子ども一人ひとりの発達やニーズに応じた指導を個別に具体的に計画したもの。
- 2 障がいのある子ども一人ひとりに対して、教育、医療、福祉、労働等の関係機関が連携し、乳幼児期から学校卒業までを通じて一貫した支援を効果的に行うための長期的な計画。

(2) 「観音寺子ども読書の街づくり」の充実に向けて

本市では、平成20年度より「子ども読書の街づくり推進事業」を展開し、「読書で広がる人のわ、街のわ、心のわ」のテーマのもと、本好きな子どもが一人でも多く育つよう、様々な活動に取り組んでいます。

幼少期での本との出会いは、豊かな心の根を育てることはもちろん、一冊の本が感動的な出会いやかかわりを創り出し、心と心が響き合う人間関係をつくることにもつながります。

本市では、すべての保育所や幼稚園で、保育者やボランティアによる読み聞かせを実施しているだけでなく、絵本コーナーの環境整備や保護者への啓発活動にも取り組み、本好きの子どもが多く育つよう努力を重ねています。

ブックスタート

本市では、3か月検診の際に、すべての乳児と保護者に絵本を渡しています。乳児の言葉と心をはぐくむためには、親子が肌を合わせて、そのぬくもりを感じながら、優しく語りかけるひとときが大切です。このような体験が温かい親子関係づくりに重要であり、絵本は大きな役割を果たすものと考え、取り組んでいます。



【おひざのうえでうれしいな】

保育所や幼稚園での読み聞かせ・語り

本市のすべての保育所や幼稚園で実施されています。語り手は、園長や所長、担任、地域のボランティアや出前図書館部隊等、多種多様であり、子どもたちはその時間を非常に楽しみにしているようです。最近は本を持たない「語り」も取り入れられており、子どもたちの想像力を豊かにする取組として注目されています。



【次のページはどうなるんだろう】

観音寺子ども読書フェスティバル

毎年11月後半に行われる本イベントは、毎年1000人を超える来場者を迎え、盛大に開催されています。市内の小中学生で構成するキッズ読み聞かせ隊やボランティアによる「お話し会」や「親子絵本づくり」等の様々なイベントに、数多くの子どもたちが参加しています。今年で開催5年目を迎え、本にひたり、本が好きになる2日間として、市民の間に定着しつつあります。

(3) 食育の充実に向けて

食べることは生きていく上で欠かせないものであり、食育は、健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむために大切なものです。

本市では、保育所、幼稚園、小・中学校、家庭、地域等で積極的に食育が推進されています。

保育所・幼稚園・小学校での食育

子どもが食に対する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けることができるよう、食育活動の一層の促進を図るとともに、食事を通じて、食べることの大切さや食事マナー等の指導内容の充実を図っています。

望ましい食生活や食材に対する関心を高め理解を深めるとともに地産地消を推進し、地域の生産者等と連携し、体験などを通じて食に対する感謝の心をはぐくむなどの取組を進めています。

子どもが友だち等と一緒に食べることにより人に対する思いやりや食事に対する楽しさを学べる環境をつくっています。



【うわぁ たくさん抜けたよ】

家庭での食育

保育所・幼稚園・小学校等であったことを家族と話しながら食事をするのは、望ましいことです。

また、家族でたけのこ狩りや果物狩り等に参加し、子どもが食材のルーツについて学べる環境をつくることも大切です。

さらに、積極的に食事作りを手伝うようにすることで、親から子どもへ家庭の味や郷土料理を伝えていくこともできるようになります。

地域での食育

食生活改善推進員や愛育会等と協同して、親子クッキング等の調理実習を行い、食に対するいろいろなことを学んでいきます。

農協まつりやおさかな市など地元のイベントに参加し、「伊吹いりこ」「らりるれレタス」「豊南なし」をはじめとする観音寺市の特産物を知り、地産地消を推進しています。



【トントン うまくきれたよ】

『観音寺子どもすくすくプラン』イメージ図

平成20年3月の改訂により、双方のねらい・内容について、整合が図られている。

保育所保育指針

幼稚園教育要領

観音寺子どもすくすくプラン

「すくすく のびのび 元気いっぱい 観音寺っ子」
 ～未来につなぐ 生きる力をはぐくむ～

☆☆めざす子ども像☆☆

- ◆ 感じたり 考えたりしながら ねばり強く やってみる子ども
- ◆ 温かい気持ちで 自分に自信をもち 友だちを思いやる子ども
- ◆ 自ら体を動かして 元気いっぱいに 友だちと遊びこむ子ども

保育課程

教育課程

保育課程、教育課程は各園所で編成する。

検証・改善

検証・改善

長期(年・期・月)の指導計画

検証・改善

検証・改善

短期(週・日)の指導計画

検証・改善

検証・改善

実践

検証・改善

検証・改善

反省・評価・考察



第2章

『観音寺子どもすくすくプラン』 保育・教育課程

1 保育・教育課程の見方

第2章では、小学校教育との接続を踏まえ、乳幼児期の子どもに生きる力の基礎を培うために、発達や学びの連続性を考慮しながら、就学前の段階（0歳児から5歳児まで）における保育・教育のねらいや確実に経験させておきたい内容、環境構成や援助のポイントを明示しています。

本保育・教育課程は、大きく「視点別」と「年齢別」に分けて明示をしています。それぞれの見方については、次の通りです。

【視点別】 保育・教育課程

年齢期	0歳児	1歳児	2歳児
学びの芽生え	◎特定の保育者と… ・興味をもった玩具 ・安心できる保育者 ☆音の出る玩具、追視 良い玩具など ○見る・聞く・ふれる て楽しめる遊び（	◎身の回りのものや ・身近な人や身の回… ・保育者や友だち… ☆ままごと・積み木 も通し・絵本など ○子どもの発見や驚 め共感する機会	◎身の回り ・保育者と一 ・保育者と一 ☆パズル ○一人ひとり め、イメ の準備（まねっこ
	◎では、3つの視点ごとに、それぞれの年齢期にめざす保育・教育の「ねらい」を示しています		
	☆では、視点ごとに、それぞれの年齢期における内容を示しています。		

ここでは、本プランでめざす3本柱である「学びの芽生え」「人とのかかわり」「元気な体」という「視点」を示しています。

☆では、視点ごとに、それぞれの年齢期での保育・教育における環境構成や援助のポイントを示しています。

【年齢別】 保育・教育課程

0歳児

学びの芽生え	人とのかかわり	元気な体
◎特定の保育者とふれ合う… ・興味をもった玩具やもの… ・安心できる保育者に見守… ☆音の出る玩具、追視玩具、肌の良い玩具など ○見る・聞く・ふれるなど五 って楽しめる遊び（わらべう	◎特定の保育者との十分な… ・表情の変化やしぐさ・喃… ・保育者の話しかけに、表情… ☆子どもにとって安心感のあり ／特定の保育者による援 ○表情豊かにスキンシップを ら、一人ひとりの欲求や	◎清潔で安全な立つ、伝い歩 して過ごす。 ☆清潔で安全な立つ、伝い歩 →個々の発達や立つ… ☆生理的欲求（食欲

視点別一覧表にまとめたものを、年齢期ごとに整理したものです。年齢期ごとに3つの視点で、どのような子どもをめざすのか、見ることができているようにしています。（◎や・の意味は同じです。）

2 観音寺子どもすくすくプラン【視点別】保育・教育課程

観音寺子どもすくすくプラン 【めざす子ども像】視点別一覧表 <学びの芽生え>

◎ねらい ・内容 ☆環境 ○援助

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
学 び の 芽 生 え	<p>◎特定の保育者とふれ合う中で、豊かな五感を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味をもった玩具や物にふれたり、繰り返し遊んだりすることを喜ぶ。 ・安心できる保育者に見守られ、探索活動を喜ぶ。 ・あやし遊びやふれ合い遊びを楽しむ。 ・散歩や戸外遊びにより、自然の中で過ごす心地よさを感じる。 	<p>◎身の回りの物やことに興味や好奇心をもって、かかわろうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人や身の回りの物に自発的に働きかけ、探索活動を活発にする。 ・保育者や友だちの持っている玩具やしていることに興味をもち、見たり同じようにしたりして遊ぶことを喜ぶ。 ・保育者と一緒に、見たて遊びやつもり遊びをする。 ・好きな絵本や紙芝居を繰り返し見ることが喜ぶ。 	<p>◎身の回りの物・ことに興味を広げ、探索や模倣などをして遊ぶことを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に、水・砂・土・紙などの素材にふれて感触に親しむ。 ・保育者と一緒に模倣したり、経験したことを思い浮かべたりしながら、簡単なごっこ遊びを楽しむ。 ・絵本や紙芝居を楽しんで見たり聞いたりし、繰り返しの言葉の模倣を楽しむ。 ・なぐりがきや粘土遊び・歌遊びなどを通して、のびのびと表現することを楽しむ。 ・不思議に思ったことを盛んに質問しようとする。 	<p>◎身近な環境に興味をもち、自分からかかわろうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂・水・泥などにふれて遊ぶ。 ・身近な遊具で遊ぶ。 ・保育者と一緒に身近な動植物を見たりふれたりする。 ・絵本や紙芝居などを喜んで見る。 ・形や色・数などに興味をもつ。 	<p>◎身近な環境に自らかかわり、様々なことを感じたり考えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなものに興味をもち、感触を楽しむ。 ・教えられて用途に合った素材や用具の使い方を知る。 ・身近な動植物に興味をもち、保育者や友だちと世話をする。 ・絵本や物語などに親しみ、想像しながら聞く。 ・形や色・数などを数えたり比べたり組み合わせたりする。 	<p>◎考えたり試したりしたことを遊びや生活に取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなものの性質に興味や関心をもち、使って遊ぶ。 ・イメージや目的に合った素材や用具を選び、工夫して遊ぶ。 ・動植物の生態や変化に関心をもち、観たり調べたり世話をしたりする。 ・いろいろな絵本や物語に親しみ、イメージを広げながら見たり聞いたりする。 ・文字や数量・図形を遊びに取り入れる。
	<p>☆音の出る玩具、追視玩具、肌ざわりの良い玩具など</p> <ul style="list-style-type: none"> →目と手の協応の発達を踏まえて →一人ひとりの発達差を考慮して <p>○見る、聞く、ふれるなど五感を使って楽しめる遊び（わたべうたなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> →身の回りのことに興味・関心がもてるように →特定の保育者との愛着関係づくりと結び付くように <p>○身近な自然の素材・生き物・乗り物などに接する機会の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> →楽しさを土台に外界への関心を広げるために 	<p>☆ままごと・積み木・小麦粉粘土・ひも通し・絵本など</p> <ul style="list-style-type: none"> →子どもの発達や興味に応じて →一人ひとりがじっくり落ち着いて遊べるように <p>○子どもの発見や驚き、欲求を受け止め共感する機会の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> →子ども同士のかかわりが育まれるように <p>○一人ひとりの発達を理解しながら見守ったり、共に楽しんだりする機会</p> <ul style="list-style-type: none"> →保育者など特定の大人との情緒的な絆が深まるように 	<p>☆パズルやカード・積み木などの玩具や素材など</p> <ul style="list-style-type: none"> →興味や好奇心を広げ、子ども同士で探索や模倣を楽しんで遊べるように <p>○一人ひとりの思いをしっかり受け止め、イメージを膨らませて遊ぶ機会</p> <p>（まねっこ遊びなど）の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> →見たこと、経験したこと、感じたことなどをその子なりの方法で表現できるように 	<p>☆思い切り砂や土の感触が楽しめる場の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> →子ども同士で開放的な気分が味わえるように <p>☆自分から遊びたいようになるような場やものの準備</p> <ul style="list-style-type: none"> →一人ひとりの興味や関心を探ることができるように <p>○子どもの表情や行動を丁寧に受け止め、それぞれが満足いくような援助</p> <ul style="list-style-type: none"> →したいことに保育者と一緒にかかわっていけるように 	<p>☆多様な素材や自然物などを準備し、目につくような場や選んで使えるような置き方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> →自分で発見したり試したり工夫したりできるように <p>○個々に考えたり試したりしている姿を見守り、それぞれの状態に応じて、話を聞いたりアドバイスをしたりする援助</p> <ul style="list-style-type: none"> →自分でできた自信がもてるように 	<p>☆じっくりものとかかわれる／友だちの考えにふれられる場の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> →ものやことを意図的に準備し、どの子どもの経験も深まるように <p>☆これまでの経験・知識や直接的な体験を活かして、友だちと遊びを発展していける環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> →好奇心や探究心を満たし、生命がもつ不思議さや尊さなどに気付いていけるように <p>○考えや思いに共感し、必要に応じたアドバイスの提示</p> <ul style="list-style-type: none"> →友だちと競い合ったり、教え合ったりしながら遊びを進めていけるように

「人とのかかわり」については、2～3歳児の時期にゆったりと成長しますので、2年間をまとめて表記しております。ここでは継続児と新入園児と分けて掲載しています。

	0歳児	1歳児	2歳児→3歳児	4歳児	5歳児	
人 と の か か わ り	<p>◎特定の保育者との十分なスキンシップや、温かなかかわりの中で安心して過ごす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表情の変化や、しぐさ・喃語などで感情や欲求を伝えようとする。 ・保育者の話しかけに、表情や動作・喃語などで応じ、ふれ合いややりとりを喜ぶ。 	<p>◎保育者や友だちに興味や関心を持ち、一緒に過ごすことを喜ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の話しかけを喜び、欲求や思いを簡単な言葉で伝えようとする。 ・一人遊びを十分に楽しみながら、次第に友だちといること、同じ場で一緒に遊ぶことの喜びを感じる。 	<p>◎保育者や友だちに親しみを持ち、かかわって遊ぶ楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自我が育ち、「自分で」「いや」などと自己主張しようとする。 ・保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で言葉のやりとりを楽しむ。 ・保育者や友だちと同じ遊びを好んだり、つもり遊びを楽しんだりする。 	<p>【3歳児からの新入園児について】</p> <p>◎保育者に親しみを持ち、安心して過ごす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者のそばで過ごす。 ・したいことやしてほしいことを保育者に言う。 ・友だちに関心をもつようになり、好きな友だちと一緒に遊ぶ。 ・保育者の表情や態度から気持ちに気付く。 ・簡単なルールのある遊びをする。 	<p>◎友だちや保育者と一緒に活動することを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの遊びを見たりまねたりしてやってみようとする。 ・好きな友だちとかかわって遊ぶ。 ・思ったことを保育者や友だちに伝える。 ・気の合う友だちと同じ目的をもって遊ぶ。 ・簡単なルールを守って遊ぶ。 	<p>◎友だちと共通の目的を持ち、協力して遊びや生活を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちとイメージや目的を共有し、繰り返し取り組む。 ・友だちのよさに気付き、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・困ったことや不都合なことを話し合い、相手の思いに気付く。 ・役割を分担したり協力したりして遊びや仕事を進める。 ・自分たちで決めた約束やルールを守って遊ぶ。
	<p>☆子どもにとって安心感のある環境づくり／特定の保育者による援助</p> <ul style="list-style-type: none"> →家庭のような雰囲気や、周囲の大人への信頼感をはぐくむために <p>○表情豊かにスキンシップを図りながら、一人ひとりの欲求や甘えなどを十分受け入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> →信頼できる大好きな大人に、安心して自分の思いが出せるように 	<p>☆ゆったりとした遊びのスペースの確保／玩具の数や量の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> →一人ひとりやりたい遊びがゆったりと楽しめるように <p>○子どもの言葉で伝えようとする姿を受け止め共感する／保育者が言葉を添えて応答的にかかわる</p> <ul style="list-style-type: none"> →思いが伝わることの楽しさを味わえるように 	<p>☆模倣遊びやごっこ遊びに必要な用具や材料・場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> →模倣したりなりきって遊んだりする楽しさが味わえるように <p>○場に応じた適切な保育者の仲立ち</p> <ul style="list-style-type: none"> →友だちと一緒に遊ぶ楽しさを次第に経験できるように <p>○双方の思いを受け止めながら、友だちへのかかわり方を知らせる援助</p> <ul style="list-style-type: none"> →自己主張の強まりとともに増えるトラブルに対する折り合いをつけられるように 	<p>☆ゆったりとした時間や場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> →個々のペースで好きなものが見つけられるように <p>☆一人ひとりが満足できるものの数や量の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> →友だちを意識していけるように <p>○親子で幼稚園が楽しいと感じられるような配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> →親子ともども園生活に無理なく慣れていけるように <p>○一人ひとりへの丁寧なかかわり／気持ちを受け止めたりスキンシップをとったりするかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> →園生活への安心感をもたせ、保育者との信頼関係を築けるように 	<p>☆友だちとの遊びが展開できるような素材の量や場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> →友だちと一緒にいることの楽しさや仲間とのつながりを感じられるように <p>○一人ひとりの不安や戸惑いの受け止め／それぞれの思いに丁寧に応じる保育者のかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> →保育者への信頼感や安定感を高められるように <p>○同じ興味や目的をもっている友だちに気付かせる援助</p> <ul style="list-style-type: none"> →一緒に遊ぶ楽しさが十分味わえるように 	<p>☆遊具や素材の数や大きさの工夫／心ゆくまで遊べる時間の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> →友だちと考えを出し合ったり、力を合わせたりして遊べるように <p>○子ども間のトラブルの原因や方法をともに考えるかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> →自分たちで解決していこうとする気持ちを育てるために <p>○子どもそれぞれのよさを認め、励ます</p> <ul style="list-style-type: none"> →よさが生かされ、友だちとのつながりが深まるように

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
元 気 な 体	<p>◎生理的欲求を受け止めてもらい、心地よく生活する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠や食事のリズムを整え、安心して過ごす。 ・ミルクや離乳食を喜んで食べる。また、手づかみやスプーンで食べようとする。 ・おむつを替えてもらうなどして、清潔にすることの心地よさを感じる。 <p>☆清潔で安全な環境づくり →個々の発達や健康状態などに合わせて</p> <p>☆生理的欲求（食欲・睡眠・排泄など）を満たせる一人ひとりの生活リズムの重視 →生命の保持と生活の安定を図るために</p> <p>◎座る・はう・立つ・伝い歩きなどの活動を喜ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座る・はう・立つ等をしようとする。 ・見る・聞く・ふれるなどして遊ぶ中で、目・手・指などの感覚や機能を働かせようとする。 <p>☆様々な身体活動を行える安全な環境の工夫 →楽しさと手応えを土台に、姿勢を変えたり、移動したりできるように</p> <p>○保育者との安定した関係を土台に誘いかけて一緒にやってみたりする →一人ひとりの発達状態を的確に把握し、それに合わせて</p> <p>○わらべ歌／リズム遊びなど →体の動きを楽しんだり、心地よいリズムを味わったりできるように →感覚や機能の発達を促すために</p>	<p>◎簡単な身の回りのことに興味をもって、保育者と一緒にしようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べることに意欲をもち、スプーンやフォークを使って自分で食べようとする。 ・オマルや便器での排泄に慣れる。 ・衣服の着脱に興味をもったり、靴を履こうとしたりする。 <p>☆自分の持ち物や玩具等の置き場所が分かる絵や写真などの表示 →自分の物と友だちの物を分かりやすくするために</p> <p>☆家庭との連携のもとに見出した自分で扱いやすい物の準備 →自分でする習慣が身に付くように →子育ての喜びを分かち合えるように</p> <p>○個の発達に配慮した生活習慣（食事・排泄・着脱など）形成へのかわり →ゆったりとしたペースで、自分でしようとする意欲をはぐくむように</p> <p>◎歩くことで行動範囲を広げたり、探索活動を盛んにしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に、のぼる・おりる・くぐるなど、全身を動かして遊ぶ。 ・つまむ・たたく・引っ張るなど、手や指を使う遊びを喜ぶ。 <p>☆歩行に関する安全面に配慮した環境づくり →歩行の確立により盛んになる探索活動を十分に保障できるように</p> <p>○全身を使うような遊びや手や指を使う遊びなど →子どもの自発的な活動を促し、見守ったりやって見せたりしながら保育者と一緒に楽しめるように</p>	<p>◎保育者に見守られながら簡単な身の回りのことを自分でしようとし、できた喜びを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな食べ物に親しみ、嫌いなものも励まされることで食べてみようとする。 ・保育者と一緒に、または自分からトイレに行き、排泄する。 ・簡単な衣服を自分で脱いだり、手伝ってもらいながら着たりしようとする。 ・手を洗ったり、鼻を拭いたりしようとする。 <p>☆物の置き場所や表示の仕方の工夫 →子どもが自分で手に取ったり、やってみたりすることができるように →生活の中で思い描けるように</p> <p>○子どもが自発的にやろうとする気持ちを大切にしたいかわり →自分でできたことを十分に認め、次への意欲を引き出すように</p> <p>◎走る・跳ぶ・のぼる・おりるなど、自分の思うように体を動かして遊ぼうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に戸外に出て、走る・跳ぶ・のぼる・おりるなど、全身を使った遊びを楽しむ。 ・指先の機能が発達し、つまむ・丸める・めくるなどの手指を使う遊びを楽しむ。 ・保育者と一緒にリズムに合わせて体を動かすことを楽しむ。 <p>☆遊具、用具の準備や安全な配置の工夫 →一人ひとりの発達を踏まえて</p> <p>○戸外遊びや遊具で遊ぶ機会の確保 →遊具や用具に慣れる経験を大切にしながら →子どもの自主性に応じて遊んだり、共に楽しんだりできるように</p>	<p>◎身の回りのことを自分でしようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者にしてもらったり、一緒にしたりする。 ・自分でできたことを喜ぶ。 ・生活の仕方を保育者に教えられて知る。 ・保育者や友だちと一緒に食べることを喜ぶ。 <p>☆自分の持ち物などの片付け場所が分かるような目印の表示 ☆生活の仕方や片付け場所などが分かるような写真やイラストでの表示 →子ども自身の主体的な動きを促すために</p> <p>○個の実態に応じた受け止めや励ましの言葉かけ →一つずつ自分でできていく喜びが感じられるように</p> <p>◎保育者や友だちと一緒に喜んで体を動かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に戸外で遊ぶ。 ・気に入った遊具で遊ぶ。 ・いろいろな遊びに興味をもつ。 ・安全な遊び方を教えられて知る。 <p>☆基本的な動きが身に付くような遊びや用具・遊具の準備 →一人ひとりの発達や生活経験を考慮して</p> <p>○保育者も積極的に戸外に出て一緒に遊び、遊具の使い方や安全な遊び方が身に付くような援助 →自分なりに体を動かす心地よさが感じられるように</p>	<p>◎園生活の流れやきまりが分かり、身の回りのことを自分でする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの始末を自分でする。 ・使ったものを保育者や友だちと一緒に片付ける。 ・生活の流れやきまりを知る。 ・身近な野菜や食材に関心をもって食べる。 <p>☆自分の持ち物や素材・用具の置き方が分かるような工夫 →子ども自身が見通しをもって動いたり、自他の物を区別したりできるようにするために →自分で楽しみながら整理したくなるように</p> <p>○片付けや衣服の調整・うがいなど、自分から気付いてしている子どもの賞賛や具体的な方法の知らせ →生活に必要なことが分かり、自分からやってみようとする気持ちがもてるように</p> <p>◎いろいろな動きをしたり、友だちと一緒に楽しんだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・いろいろな遊びを知り、楽しんで取り組む。 ・繰り返しやってみようとする。 ・安全な遊び方を知り、気を付けて遊ぼうとする。 <p>☆いろいろな遊具や用具を使って様々な動きを楽しめる環境づくり →自分なりのめあてに向かって取り組めるように</p> <p>○繰り返し取り組んでいる姿に認めたり励ましたりする →さらに意欲がもてるように</p>	<p>◎健康な生活リズムを意識し、自分で気を付けて行動しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で身の回りを整えたり、清潔にしたりする。 ・自分たちで生活の場を整えようとする。 ・食材や作ってくれた人に感謝し、友だちと一緒に食べることを楽しむ。 <p>☆生活における役割を個々に／グループで責任をもって担える機会をつくり、様子を見守りながら子どもの気付きやよさを認めるかわり →一日の生活の流れを予測したり見通しをもったりして自分たちで行動していけるように</p> <p>○生活習慣（就寝時刻や登園時刻など）をクラスの話にし、個々の実情に合わせたかわり →健康な生活習慣を個々が意識できるように（家庭環境の違いを踏まえながら）</p> <p>◎体を動かす心地よさを味わいながら、目的や課題に向かって繰り返し取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと一緒に戸外遊びを楽しむ。 ・いろいろな運動遊びの楽しさが分かり、進んで取り組む。 ・自分の目当てや課題に向かって挑戦する。 ・安全な遊び方が分かり、気を付けて行動する。 <p>☆めあてをもって遊べるような遊具の準備／活動の設定 →自分の力を試したり挑戦したりできるように</p> <p>○繰り返し挑戦する気持ちを大切に、友だちと教え合ったり励ましたりする姿を認める／励ます →できた喜びやできない悔しさを、友だちとともに味わい自信につなげていくために</p>

0 歳 児

◎ねらい ・内容 ☆環境 ○援助

学びの芽生え	人とのかかわり	元気な体
<p>◎特定の保育者とふれ合う中で、豊かな五感を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味をもった玩具やものにふれたり、繰り返し遊んだりすることを喜ぶ。  <p>トントントン… うまくできるかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心できる保育者に見守られ、探索活動を喜ぶ。 ・あやし遊びやふれ合い遊びを楽しむ。 	<p>◎特定の保育者との十分なスキンシップや、温かなかかわりの中で安心して過ごす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表情の変化や、しぐさ・喃語などで感情や欲求を伝えようとする。 ・保育者の話しかけに、表情や動作・喃語などで応じ、ふれ合いやりとりを喜ぶ。 <p>♪いっぽんばし こちょこちょ♪</p>  <p>たかい！ たか〜い！</p>	<p>◎生理的欲求を受け止めてもらい、心地よく生活する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠や食事のリズムを整え、安心して過ごす。  <ul style="list-style-type: none"> ・ミルクや離乳食を喜んで食べる。また、手づかみやスプーンで食べようとする。  <p>おいしいな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おむつを替えてもらうなどして、清潔にすることの心地よさを感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・散歩や戸外遊びにより、自然の中で過ごす心地よさを感じる。  <p>はっぱ あったよ！</p>		<p>☆清潔で安全な環境づくり →個々の発達や健康状態などに合わせて</p> <p>☆生理的欲求（食欲・睡眠・排泄など）を満たせる一人ひとりの生活リズムの重視 →生命の保持と生活の安定を図るために</p>

☆音の出る玩具、追視玩具、肌ざわりの良い玩具など

→目と手の協応の発達を踏まえて

→一人ひとりの発達差を考慮して



【テープの芯で作った音のでる玩具】



【牛乳パックで作ったふわふわ積み木】

○見る・聞く・ふれるなど五感を使って楽しめる遊び（わらべ歌など）

→身の回りのことに興味・関心をもてるように

→特定の保育者との愛着関係づくりと結び付くように

○身近な自然の素材・生き物・乗り物などに接する機会の準備

→楽しさを土台に外界への関心を広げるために

☆子どもにとって安心感のある環境づくり／特定の保育者による援助

→家庭のような雰囲気、周囲の大人への信頼感をはぐくむために

見えるかな？



ばあ！！

○表情豊かにスキンシップを図りながら、一人ひとりの欲求や甘えなどを十分受け入れる

→信頼できる大好きな大人に、安心して自分の思いを出せるように



眠くなってきたね

ねむいな



◎座る・はう・立つ・伝い歩きなどの活動を喜ぶ。

・座る、はう、立つなどしようとする。

・見る・聞く・ふれるなどして遊ぶ中で、目・手・指などの感覚や機能を働かせようとする。

☆様々な身体活動を行える安全な環境の工夫

→楽しさと手応えを土台に、姿勢を変えたり、移動したりできるように



じょうずにすべれるよ！

○保育者との安定した関係を土台に誘いかけたり、一緒にやってみたりする

→一人ひとりの発達状態を的確に把握し、それに合わせて

○わらべ歌／リズム遊びなど

→体の動きを楽しんだり、心地よいリズムを味わったりできるように

→感覚や機能の発達を促すために



学びの芽生え	人とのかかわり	元気な体
<p>◎身の回りの物やことに興味や好奇心をもって、かかわろうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人や身の回りの物に自発的に働きかけ、探索活動を活発にする。  <p>砂がさらさらさら～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友だちの持っている玩具やしていることに興味を持ち、見たり同じようにしたりして遊ぶことを喜ぶ。  <p>おともだちすき！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に、見たて遊びやつもり遊びをする。 ・好きな絵本や紙芝居を繰り返し見ることを喜ぶ。  <p>ぶたさん おった！</p>	<p>◎保育者や友だちに興味や関心を持ち、一緒に過ごすことを喜ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の話しかけを喜び、欲求や思いを簡単な言葉で伝えようとする。 <p>スプーンでたべられるよ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人遊びを十分に楽しみながら、次第に友だちといること、同じ場で一緒に遊ぶことの喜  <p>いっしょやな</p> <p>一人ひとりのマークは子どもたちが、分かりやすい果物や動物にしている。</p>	<p>◎簡単な身の回りのことに興味をもって、保育者と一緒にしようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べることに意欲を持ち、スプーンやフォークを使って自分で食べようとする。  <p>これすき！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オマルや便器での排泄に慣れる。 ・衣服の着脱に興味をもったり、靴を履こうとしたりする。  <p>よいしょはけた！</p> <p>☆自分の持ち物や玩具等の置き場所が分かる絵や写真などの表示 →自分の物と友だちの物を分かりやすくするために</p>  <p>☆家庭との連携の元に見出した自分で扱いやすい物の準備 →自分でする習慣が身に付くように →子育ての喜びを分かち合えるように</p>

☆ままごと・積み木・小麦粉粘土・ひも通し・絵本など
→子どもの発達や興味に応じて
→一人ひとりがじっくり落ち着いて遊べるように



また
つくろっ!

いっぱい
いっぱい

○子どもの発見や驚き、欲求を受け止め共感する機会の準備
→子ども同士のかかわりが育まれるように



いっしょに
あそぼ!

○一人ひとりの発達を理解しながら見守ったり、共に楽しんだりする機会
→保育者など特定の大人との情緒的な絆が深まるように



ママおしごと
いったよ…

○○ちゃん おはよう。
今日も一緒に遊ぼうね!

☆ゆったりとした遊びのスペースの確保/玩具の数や量の配慮
→一人ひとりやりたい遊びがゆったりと楽しめるように



ぼくも
さわってみたいな

うえまで
あがれたよ!

○個の発達に配慮した生活習慣(食事、排泄、着脱など)形成へのかわり
→ゆったりとしたペースで自分であろうとする意欲をはぐくむように

◎歩くことで行動範囲を広げたり、探索活動を盛んにしたりする。
・保育者と一緒に、のぼる・おる・くぐるなど、全身を動かして遊ぶ。



・つまむ・たたく・引っ張るなど、手や指を使う遊びを喜ぶ。



ここにも
はさんでみよう

☆歩行に関する安全面に配慮した環境づくり

→歩行の確立により盛んになる探索活動を十分に保障できるように



ゆっくり
下りようね。

○全身を使うような遊びや手や指を使う遊びなど
→子どもの自発的な活動を促し、見守ったりやって見せたりしながら保育者と一緒に楽しめるように

学びの芽生え	人とのかかわり	元気な体
<p>◎身の回りの物・ことに興味を広げ、探索や模倣などをして遊ぶことを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に、水・砂・土・紙などの素材にふれて感触に親しむ。  <p>みてみて！おみずで えがかけたよ。おもしろいな</p> <p>つみき、ながくできた！！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に模倣したり、経験したことを思い浮かべたりしながら、簡単なごっこ遊びを楽しむ。 ・絵本や紙芝居を楽しんで見たり聞いたりし、繰り返しのあえる言葉の模倣を楽しむ。 ・なぐりがきや粘土遊び・歌遊びなどを通して、のびのびと表現することを楽しむ。 ・不思議に思ったことを盛んに質問しようとする。 	<p>◎保育者や友だちに親しみをもち、かかわって遊ぶ楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自我が育ち、「自分で」「いや」などと自己主張しようとする。 <p>しいたけ ちよっとだけ たべてみよ…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で言葉のやりとりを楽しむ。  <p>じぶんできるの！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友だちと同じ遊びを好んでしたり、つもり遊びを楽しむんだりする。 <p>実物を写真に撮り、棚に貼っておくことで、ある場所が分かたり、片付けたりできるようにしている。</p>	<p>◎保育者に見守られながら簡単な身の回りのことを自分でしようとし、できた喜びを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな食べ物に親しみ、嫌いなものも励まされることで食べてみようとする。  <ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に、または自分からトイレに行き、排泄する。 ・簡単な衣服を自分で脱いだり、手伝ってもらいながら着たりしようとする。  <ul style="list-style-type: none"> ・手を洗ったり、鼻を拭いたりしようとする。 <p>☆物の置き場所や表示の仕方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> →子どもが自分で手に取ったり、やってみたりできるように →生活の中で思い描けるように  <p>○子どもが自発的にやろうとする気持ちを大切にしかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> →自分でできたことを十分に認め、次への意欲を引き出すように

☆パズルやカード・積み木などの玩具や素材など

→興味や好奇心を広げ、子ども同士で探索や模倣を楽しんで遊べるように



ここかな？
あっ
はいったよ

○一人ひとりの思いをしっかり受け止め、イメージを膨らませて遊ぶ機会（まねっこ遊びなど）の準備

→見たこと、経験したこと、感じたことなどをその子なりの方法で表現できるように



トンネルのしたに
じどうしゃがはしるよ。
ぶつぶっー ぶつぶっー

☆模倣遊びやごっこ遊びに必要な用具や材料、場の設定

→模倣したりなりきって遊んだりする楽しさが味わえるように



よしよし あかちゃん
ねんねしてあげるね

○場に応じた適切な保育者の仲立ち

→友だちと一緒に遊ぶ楽しさを次第に経験できるように

○双方の思いを受け止めながら、友だちへのかかわり方を知らせる援助

→自己主張の強まりとともに増えるトラブルに対する折り合いをつけられるように



いっしょに ちょうさをひっぱるな！

◎走る・跳ぶ・のぼる・おりるなど、自分の思うように体を動かして遊ぼうとする。

はいどうぞ
あかちゃんに たべさせてあげてね。おいしいよ。

・保育者と一緒に戸外に出て、走る・跳ぶ・のぼる・おりるなど全身を使った遊びを楽しむ。

・指先の機能が発達し、つまむ・丸める・めくるなどの手指を使う遊びを楽しむ。

・保育者と一緒にリズムに合わせて体を動かすことを楽しむ。

☆遊具、用具の準備や安全な配置の工夫

→一人ひとりの発達を踏まえて

○戸外遊びや遊具で遊ぶ機会の確保

→遊具や用具に慣れる経験を大切にしながら

→子どもの自主性に応じて遊んだり、共に楽しんだりできるように



みんなと いっしょに
しゅ～

3 歳 児

「人とのかかわり」については、2～3歳児の時期にゆったりと成長しますので、2年間をまとめて表記しております。ここでは継続児と新入園児を分けて掲載しています。

◎ねらい ・内容 ☆環境 ○援助

学びの芽生え	人とのかかわり	元気な体
<p>◎身近な環境に興味をもち、自分からかかわろうとする。</p> <p>・砂・水・泥などにふれて遊ぶ。</p> 	<p>【3歳児からの新入園児について】</p> <p>◎保育者に親しみをもち、安心して過ごす。</p> <p>・保育者のそばで過ごす。</p> <div data-bbox="710 616 997 884" style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #e0f0ff;"> <p>「せんせい、プリンできたよ！」 「はいどうぞ」 「おいしそう」 「ありがとう」</p> </div>	<p>◎身の回りのことを自分でしようとする。</p> <p>・保育者にしてもらったり、一緒にしたりする。</p>  <div data-bbox="1077 828 1412 952" style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #e0f0ff;"> <p>「ひとりでできるかな」 「むずかしいな」</p> </div>
<p>・身近な遊具で遊ぶ。</p> <p>・保育者と一緒に身近な動植物を見たりふれたりする。</p> <p>・絵本や紙芝居などを喜んで見る。</p> <p>・形や色・数などに興味をもつ。</p>	<p>・したいことやしてほしいことを保育者に言う。</p> <p>・友だちに関心をもつようになり、好きな友だちと一緒に遊ぶ。</p> <p>・保育者の表情や態度から気持ちに気付く。</p> <p>・簡単なルールのある遊びをする。</p>	<p>・自分でできたことを喜ぶ。</p> <p>・生活の仕方を保育者に教えられて知る。</p> <p>・保育者や友だちと一緒に食べることを喜ぶ。</p> <p>☆自分の持ち物などの片付け場所が分かるような目印の表示</p>
 <div data-bbox="199 1803 406 1915" style="border: 1px solid orange; border-radius: 50%; padding: 10px; background-color: #fff9c4; display: inline-block;"> <p>おはなし たのしいね</p> </div>	<p>☆ゆったりとした時間や場所の確保 →個々のペースで好きなものが見付けられるように</p> <p>☆一人ひとりが満足できるもの の数や量の提示 →友だちを意識していけるように</p>	<p>☆生活の仕方や片付け場所などが分かるような写真やイラストでの表示 →子ども自身の主体的な動きを促すために</p> <p>○個の実態に応じた受け止めや励ましの言葉かけ →一つずつ自分でできていく喜びが感じられるように</p>

☆思い切り砂や土の感触が楽しめる場の準備

→子ども同士で開放的な気分が味わえるように

「みず、ながしていい？」
「いいよ！」



☆自分から遊びたくなるような場やものの準備

→一人ひとりの興味や関心を探ることができるように

○子どもの表情や行動を丁寧に受け止め、それぞれが満足いくような援助

→したいことに保育者と一緒にかかわっていけるように

○親子で幼稚園が楽しいと感じられるような配慮

→親子ともども園生活に無理なく慣れていけるように

みんなみえるよ！



せんせい！
そとは
きもちいいね

○一人ひとりへの丁寧なかかわり／気持ちを受け止めたりスキンシップをとったりするかかわり

→園生活への安心感をもたせ、保育者との信頼関係を築けるように

わたしもできるよ。
ケンパー ケンパー
ケン ケンパー

◎保育者や友だちと一緒に喜んで体を動かす。

・保育者と一緒に戸外で遊ぶ。

・気に入った遊具で遊ぶ。



ひとりでブランコこげるよ

・いろいろな遊びに興味をもつ。
・安全な遊び方を教えられて知る。

☆基本的な動きが身に付くような遊びや用具・遊具の準備

→一人ひとりの発達や生活経験を考慮して



○保育者も積極的に戸外に出て一緒に遊び、遊具の使い方や安全な遊び方が身に付くような援助
→自分なりに体を動かす心地よさが感じられるように

学びの芽生え	人とのかかわり	元気な体
<p>◎身近な環境に自分らかかわり、様々なことを感じたり考えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなものに興味をもち、感触を楽しむ。 <p>○○くんとおったらおもっしょいな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教えられて用途に合った素材や用具の使い方を知る。 <p>うわあ！さなぎがちょうちょにへんしんとる！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な動植物に興味をもち、保育者や友だちと世話をする。  <ul style="list-style-type: none"> ・絵本や物語などに親しみ、想像しながら聞く。 ・形や色・数などを数えたり比較したり組み合わせたりする。 	<p>◎友だちや保育者と一緒に活動することを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの遊びを見たりまねたりしてやってみようとする。 ・好きな友だちとかかわって遊ぶ。  <p>いっしょにいたるとのしいな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思ったことを保育者や友だちに伝える。 ・気の合う友だちと同じ目的をもって遊ぶ。 ・簡単なルールを守って遊ぶ。 <p>つぎ ぼくのばん！</p> 	<p>◎園生活の流れやきまりが分かり、身の回りのことを自分でする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの始末を自分でする。 ・使ったものを保育者や友だちと一緒に片付ける。 ・生活の流れやきまりを知る。 ・身近な野菜や食材に関心をもって食べる。 <p>☆自分の持ち物や素材・用具の置き方が分かるような工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> →子ども自身が見通しをもって動いたり、自他の物を区別したりできるようにするために →自分で楽しみながら整理したくなるように <p>○片付けや衣服の調節・うがいなど、自分から気付いてしている子どもの賞賛や具体的方法の知らせ</p> <ul style="list-style-type: none"> →生活に必要なことが分かり、自分からやってみようとする気持ちがもてるように

☆多様な素材や自然物などを準備し、目につくような場や選んで使えるような置き方の工夫
 →自分で発見したり試したり工夫したりできるように

うわっ！すごーい
 せーの！ふ～！
 おおきなしゃぼんだま



☆友だちとの遊びが展開できるような素材の量や場の設定
 →友だちと一緒にいることの楽しさや仲間とのつながりを感じられるように

○一人ひとりの不安や戸惑いの受け止め／それぞれの思いに丁寧に応じる保育者のかかわり
 →保育者への信頼感や安定感を高められるように

◎いろいろな動きをしたり、友だちと一緒に楽しんだりする。
 ・戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。
 ・いろいろな遊びを知り、楽しんで取り組む。



ねらってなげるぞ！
 あたらないようににげるよ！

○個々に考えたり試したりしている姿を見守り、それぞれの状態に応じて、話を聞いたりアドバイスをしたりする援助
 →自分でできた自信がもてるように

○同じ興味や目的をもっている友だちに気付かせる援助
 →一緒に遊ぶ楽しさが十分味わえるように

・繰り返しやってみようとする。
 ・安全な遊び方を知り、気を付けて遊ぼうとする。

○○くんのこま
 ながいあいだまわるなあ



こんなまわしかたもできるよ！

☆いろいろな遊具や用具を使って様々な動きを楽しめる環境づくり
 →自分なりのめあてに向かって取り組めるように

○繰り返し取り組んでいる姿を認めたり励ましたりする
 →さらに意欲がもてるように

学びの芽生え	人とのかかわり	元気な体
<p>◎考えたり試したりしたことを遊びや生活に取り入れる。</p> <p>・いろいろなものの性質に興味や関心をもち、使って遊ぶ。</p>	<p>◎友だちと共通の目的をもち、協力して遊びや生活を進める。</p> <p>・友だちとイメージや目的を共有し、繰り返し取り組む。</p>	<p>◎健康な生活リズムを意識し、自分で気を付けて行動しようとする。</p> <p>・自分で身の回りを整えたり、清潔にしたりする。</p>
<p>「ゴールめざしてがんばれ！」 「みんな！ちゅうもく！」</p> 	<p>おいしい！ここでつまってしまったよ こんどこそ、せいこうさせよう！</p> <p>・自分たちで生活の場を整えようとする。</p> <p>・食材や作ってくれた人に感謝し、友だちと一緒に食べることを楽しむ。</p>	<p>自分たちで生活の場を整えようとする。</p> <p>・食材や作ってくれた人に感謝し、友だちと一緒に食べることを楽しむ。</p>
<p>イメージや目的に合った素材や用具を選び、工夫して遊ぶ。</p> <p>ぼくがきるきん、もっといいてちからをあわせてよいしょ！よいしょ！</p> <p>つぎ、きらせてな</p>	<p>・友だちのよさに気づき、一緒に遊ぶことを楽しむ。</p>	<p>おおきくなったらみんなでたべようね</p> 
	<p>・困ったことや不都合なことを話し合い、相手の思いに気付く。</p>	<p>☆生活における役割を個々に／グループで責任をもって担える機会をつくり、様子を見守りながら幼児の気付きや良さを認めるかかわり →一日の生活の流れを予測したり見通しをもったりして自分たちで行動していけるように</p>
<p>・動植物の生態や変化に関心を持ち、観たり調べたり世話をしたりする。</p> <p>・いろいろな絵本や物語に親しみ、イメージを広げながら見たり聞いたりする。</p> <p>・文字や数量・図形を遊びに取り入れる。</p>	<p>・役割を分担したり協力したりして遊びや仕事を進める。</p> <p>・自分たちで決めた約束やルールを守って遊ぶ。</p>	<p>ぎゅうにゆうとうばん、バッチリかすがかぞえられたね</p>  <p>○生活習慣（就寝時刻や登園時刻など）をクラスの話題にし、個々の実情に合わせたかかわり →健康な生活習慣を個々が意識できるように（家庭環境の違いを踏まえながら）</p>

☆じっくりものとかかわれる／
友だちの考えにふれられる場
の準備

→ものやことを意図的に仕組
み、どの幼児の経験も深ま
るように

〇〇くん、
そっちひっぱって！
ほんものみたいに
なってきたぞ！



☆これまでの経験・知識や直接
的な体験を活かして、友だち
と遊びを発展していける環境
づくり

→好奇心や探究心を満たし、
生命がもつ不思議さや尊さ
などに気付いていけるよう
に

○考えや思いに共感し、必要に
応じたアドバイスの提示

→友だちと競い合ったり、教
え合ったりしながら遊びを
進めていけるように

☆遊具や素材の数や大きさの工
夫／心ゆくまで遊べる時間の
確保

→友だちと考えを出し合っ
たり、力を合わせたりして遊
べるように

○子ども間のトラブルの原因や
方法をともに考えるかわり

→自分たちで解決していこう
とする気持ちを育てるために

ぼくは、▲▲とおもう。
〇〇くんは、どうおもう？



○幼児それぞれのよさを認め励
ます

→よさが生かされ、友だちと
のつながりが深まるように

◎体を動かす心地よさを味わい
ながら、目的や課題に向かっ
て繰り返し取り組む。

・友だちと一緒に戸外遊びを楽
しむ。

・いろいろな運動遊びの楽しさ
が分かり、進んで取り組む。

・自分のめあてや課題に向かっ
て挑戦する。

・安全な遊び方が分かり、気を
付けて行動する。

☆めあてをもって遊べるような
遊具の準備／活動の設定

→自分の力を試したり挑戦し
たりできるように

○繰り返し挑戦する気持ちを大
切に、友だちと教え合ったり
励ましたりする姿を認める／
励ます

→できた喜びやできない悔し
さを、友だちと共に味わい
自信につなげていくために

なわとびきょうそう
よ〜い どん！



ようし！まけないぞ

第3章

小学校入学期の各教科等における指導

1 各教科等における指導のポイント

本プランでは、第2章までに、子どもの生きる力を育成するために、その基礎となる資質・能力を「“確かな学力”につながる**学びの芽生え**」「“豊かな心”につながる**人とかかわり**」「“健やかな体”につながる**元気な体**」にとらえ、就学前教育で経験させておきたい内容を明らかにしてきました。

このようにして保育所や幼稚園で培われてきた学びの基礎や子ども自身も自身ももつ発達の特徴は、小学校教育へと円滑に接続し、体系的な教育が計画的・組織的に行われることでさらに大きく伸びていきます。

ここでは、就学前教育と小学校教育との円滑な接続を図りつつ、各教科等の目標の実現に努めていくために行われる小学校の入学期における指導について、その留意点を明らかにしていきます。

さらに次項では、就学前教育との接続を意識した小学校入学期における各教科等の指導例を掲載しました。

国語科 単元名「あいうえおの うた」【4月下旬】

<入学期における指導のあり方>

自分が言葉にして表したことが、みんなに受け止めてもらえたという経験を多く与えることが大切です。そこで、教師は、個々の発言を受け止め、そのよさを称賛したり、価値づけたりすると同時に、友だちの発言に耳を傾け、しっかり聞くことの指導を重ね、安心して話せる環境を作ります。…

入学期だからこそ大切にしたい学習指導の在り方について、各教科の特性を踏まえた基本的な考え方を示しています。

目標：絵と言葉をつなぎ、「あいうえおのうた」の意味をとらえて音読することができる。

入学期における学習について、めざす目標を示しています。



時間	学習活動と予想される児童の反応	○ 各教科における指導事項 〇 就学前教育との関連 〇 接続を意識した指導のポイント
5分	1 題名からどんな歌なのか考え、本時のめあてを確かめる。 ・「うた」だから、楽しめ… ・「あいうえお」という…	〇 教材に対する興味や関心を高められるよう、就学前に経験した… 〇 どんな言葉が書かれた歌なのか、想像できるように、題名だけを板書する。

就学前教育との関連について、示しています。

接続期だからこそ気を付けたい指導のポイントを示しています。

2 入学期における各教科等の指導例

(単元名横の※は、指導事例を掲載)

1年生のスタートカリキュラム (4月～5月中旬ごろ)			
学 び	<p>【国語】</p> <p>「みつけたよ」 話すことに慣れる</p> <p>「はきはきあいさつ」 場面に合わせてあいさつをする</p> <p>「あめですよ」 言葉のリズムを楽しんで読む</p> <p>「みんなにつたえよう」 丁寧な言葉遣いで話す</p> <p>「ほんがたくさん」 お話の楽しさを味わう</p> <p>「じをかこう」 平仮名を書く</p> <p>※ 「あいうえおのうた」 意味を捉えて音読する (p31)</p> <p>「ことばあそび」 平仮名の読み書きに習熟する</p> <p>「あひるのあくび」 リズムを楽しみながら詩を音読する</p>		
	<p>【算数】</p> <p>※ 「かずとすうじ」 5までの数の概念と命数法とかき方 (p32)</p> <p>「かずとすうじ」 10までの数の概念と命数法とかき方</p> <p>「なんばんめ」 上下左右前後の順序数と集合数</p> <p>「いくつといくつ」 10までの数の合成・分解</p>		
	<p>【生活科】</p> <p>「がっこうはたのしいよ」 学校生活の楽しいところを見つけ</p> <p>※ 「なかよくなるうね」 自己紹介 (p34)</p> <p>「みんなであそぼう」 なかよく遊ぶ</p> <p>「えがおがあっちにもこっちにも」 通学路の安全</p> <p>「きいてきいて」 学校や家であった出来事を話す</p> <p>「はながうたうよるんららん」 あさがおの栽培</p> <p>※ 「さあしゅっぱつ! がっこうたんけん」 学校探検 (p33)</p> <p>「わたしもおてつだい」 生き物とふれ合う (生活)</p> <p>「いちにさんぽでさんさんおひさま」 地域や自然に親しむ</p>		
人 と の か か わ り		<p>【学級活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのよいあいさつ ・友だちの名前の呼び方 ・掃除の仕方 ・係や当番を決めよう ・あいさつリレー 	<p>【道徳】</p> <p>「やさしいことばかけ」</p> <p>「たのしいがっこう」</p> <p>「こうえんのべんち」</p> <p>「あたらしいのち」</p>
	元 気 な 体	<p>【学級活動】 (元気に生活する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の健康観察・手洗い、うがい、歯みがき ・トイレ、着替え・廊下の歩き方・登下校の仕方 	<p>【体育】 (遊具で遊ぶ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべり台、ジャングルジム、鉄棒、登り棒 ・ぶらんこ、うんてい 等
<p>【学級活動】 (好き嫌いをなく食べる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食の配膳や片づけ・食べ方のマナー ・感謝の心・食べ物の名前と働き 			

<入学期における指導のあり方>

自分が言葉にして表したことが、みんなに受け止めてもらえたという経験を多く与えることが大切です。そこで、教師は、個々の発言を受け止め、そのよさを称賛したり、価値付けたりすると同時に、友だちの発言に耳を傾け、しっかり聞くことの指導を重ね、安心して話せる環境を作ります。

「あ」「い」「う」「え」「お」で始まる言葉を見つけたり、言葉と絵をつないで音読したりすることを通して、音と文字のつながりを意識させ、言葉を広げる楽しさや喜びを味わわせたいものです。

目標：絵と言葉をつなぎ、「あいうえおのうた」の意味をとらえて音読することができる。


時間	学習活動と予想される児童の反応	<input type="radio"/> 各教科における指導事項 <input type="checkbox"/> 就学前教育との関連 <input type="checkbox"/> 接続を意識した指導のポイント
5分	<p>1 題名からどんな歌なのか考え、本時のめあてを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うた」だから、楽しそうだな。 ・「あいうえお」という言葉がいっぱい出てきそう。 ・「あいうえおのうた」を読もう。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">教材に対する興味や関心を高められるよう、就学前に経験した言葉遊びやカルタ遊びを思い起こさせる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">どんな言葉が書かれたうたなのか、想像できるように、題名だけを板書する。題名を全員で声に出して読み、確認する。</div>
15分	<p>2 教科書の挿絵を見て、「あ」「い」「う」「え」「お」で始まる言葉を見つけ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あり、いしころ、うし、えんそく、おひさま… 	<p>○「～です。」「～ます。」と友だちに聞こえる声で発表する。</p> <p>○友だちの発表を最後までしっかり聞く。</p> <p>○挿絵を見て、「あ」「い」「う」「え」「お」で始まる言葉を見つける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">言葉と絵をつないで理解できるように、一連ずつ、提示する。</div>
10分	<p>3 連ごとに、言葉と絵をつなぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あ」「い」「う」「え」「お」の順に文章になっているよ。 ・どれも「あいうえお」の言葉が出てくるよ。 ・「あちこち」「いろいろ」「うとうと」…始まりの言葉が「あ」「い」「う」だ。 ・ぼくにも読めそう。音読してみたいな。 	<p>○言葉のリズムや同じ音の繰り返しであることを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">手打ちや足打ちでリズムをとる活動を取り入れ、文字のまとまりを言葉としてとらえたり、言葉のリズムを楽しんだりできるようにする。</div>
15分	<p>4 様々な方法で音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムがあって、おもしろいな。 ・友だちと交代で読むと楽しいな。 ・私も音読が上手にできたよ。 	<p>○語のまとまりに気を付けて、リズムよく音読する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">友だちと声をそろえて音読する楽しさを味わえるよう、グループごとの掛け合いで音読できるようにする。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">声を出しにくい児童には、側で教師がいっしょに声を出し、言葉のリズムの楽しさを体感できるようにする。</div>

<入学期における指導のあり方>

絵を提示し、児童が見つけたことや気付いたことを受け入れたり、発問の内容をシンプルで分かりやすいものにしたりにして、「勉強は楽しい」「授業は分かる」といった満足感や達成感を味わえるようにします。

数のイメージを実感を伴って理解できるよう、数図ブロックを並べたり、数を○でかいたり、声に出して数えたりする場を設定することが大切です。

目標：具体物（生き物の絵）と半具体物（数図ブロック）を対応させながら、5までの数を表すことができる。

時間	学習活動と予想される児童の反応	<input type="radio"/> 各教科における指導事項 <input type="checkbox"/> 就学前教育との関連 <input checked="" type="checkbox"/> 接続を意識した指導のポイント
10分	1 教科書の絵を見て、何がいるかを話し合う。 ・いるかが、います。 ・貝が岩の上にあります。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">教科書の絵を拡大した資料を提示し、生活経験を基に、場面の様子を話せるようにする。</div>
15分	2 同じ種類の生き物を丸で囲み、同じ数の数字ブロックと絵を結んで、数の表し方を知る。 ・いるかは、「1」です。 ・いかの上に、ブ ロックを置いて みよう。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">簡単な発問をしたり、個々の発言を受容したりして、自分の考えを発表することへの意欲を高められるようにする。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「いるか」「たこ」「えび」など、同じ種類の生き物を丸で囲むよう助言し、生き物の種類や数に関心をもてるようにする。</div> <input type="radio"/> 具体物の個数を正しく数えようとする。 <input type="radio"/> 5までの個数の数え方が分かる。
10分	3 1から5までの数字の表し方と読み方を知る。 ・ <input checked="" type="checkbox"/> は <input type="text" value="1"/> 、「いち」。 ・ <input checked="" type="checkbox"/> は <input type="text" value="2"/> 、「に」…。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">生き物の上に数図ブロックを置く場を設け、生き物と数図ブロックの数が同じであることをとらえられるようにする。</div> <input type="radio"/> 具体物の個数を数図ブロックと1対1対応させながら考える。
10分	4 身の回りにおける具体物の個数を数えて確かめる。 ・花瓶のチューリップの数は「3」。 ・消しゴムは「1」、鉛筆は「5」。鉛筆の方が多よ。 ・5までの数は数えられるよ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">数図ブロックの数を「いち、に、さん…」と唱える活動を取り入れ、聴覚からも数を確認できるようにする。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ノートに物の個数と同じだけ○をかかせ、色鉛筆で塗ることで、数のイメージを視覚や体験で感じられるようにする。</div> <input type="radio"/> 5までの個数を数えることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">具体物、数図、数字の対応が理解できることを大切に、匹、本、冊等の名数には、あまりこだわらない。</div>

<入学期における指導のあり方>

学校にどんな施設があるか調べたり、学校の施設を利用したり、いろいろな人にインタビューしたりする場を設定し、学校のきまりやマナーを理解し、人とかかわることの楽しさを体感できるようにすることが大切です。

目標：2年生と学校を探検することを通して、学校生活への楽しみや関心をもつことができる。
：自分たちの学校には、いろいろな施設や設備があり、そこで働く人々がいることに気付くことができる。

時間	学習活動と予想される児童の反応	<input type="radio"/> 各教科における指導事項 <input type="checkbox"/> 就学前教育との関連 <input type="checkbox"/> 接続を意識した指導のポイント
5分	1 2年生から、学校探検についての説明を聞く。 ・学校にはどんなものがあるのか、知りたいなあ。 ・2年生に学校の秘密を教えてもらえそうだ。	<input type="radio"/> 話を注意して聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 事前に活動の予定を周知したり、自己紹介の練習をしたりする場を設け、学校を探検することに、意欲をもったり、活動の見通しをもったりできるようにする。 </div>
5分	2 2年生とペアを組み、自己紹介をし合う。 ・ぼくの名前は〇〇です。～が大好きです。よろしくお願いします。 ・私とペアになる2年生の名前は◇◇さん、覚えておこう。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 就学前に、行ったことのある校内の場所を絵地図で確認する。 </div> <input type="radio"/> 2年生に名刺を渡し、自分の名前と好きなことを紹介する。
30分	3 校内を2年生と一緒に探検する。 ・図書室にはたくさん本があるよ。借りられるのかな。 ・校長室には、写真がいっぱいあったよ。校長先生と話がしてみたいなあ。 ・保健室の先生と握手をしたよ。けがをした時は、傷の手当てをしてくれるそうだよ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 自分の名前をはっきり伝えたり、相手の話をしっかり聞いたりしている児童を称賛し、人とかかわり方を実践的に学べるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 探検に目的をもったり、意欲を高めたりできるように、次回は、自分たちで探検に行くことを伝えておく。 </div> <input type="radio"/> きまり（ろうかは静かに歩く。2生と一緒に探検する。等）を守って、2年生といっしょに探検する。 <input type="radio"/> 学校にある施設をよく見たり、そこで働いている人に挨拶や質問をしたりする。
5分	4 教室に戻り、見つけたことや聞いたことを友だちに紹介する。 ・図書室にはたくさん本があったよ。昼休みに、自由に借りることができるそうだよ。 ・配膳室にはエレベーターがあったよ。どんな時に使うのか知りたいな。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 自分たちの探検した場所を確認、整理できるように、探検した場所にシールを貼る「たんけんカード」をペアに1枚ずつ用意する。 </div> <input type="radio"/> 自分が見たり、聞いたりしたことを教師や友だちに話す。





たんけんカード

3 入学期における日常生活における指導例

◆ 生活指導

小学校での新しい生活の中で、児童が見通しをもち、自分から進んで活動できるように、保育所や幼稚園等での子どもたちの経験を生かして指導することが大切です。

1年生にとって、入学式は保護者と一緒の特別な日です。入学後1日目からが、一人で学校生活を始める日になります。「勉強したいな。」という気持ちを大切にしながら、学習や生活のきまりを身に付けさせていくことが大切です。

入学後の日数	具体的な指導例	担任の役割
1日目	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや返事の仕方 ・ロッカーやトイレの使い方 ・安全な下校 	<ul style="list-style-type: none"> ○担任は、絵や写真などを使いながら、楽しく、分かりやすく必要事項を伝える。 ○自分で登校できたことを称賛し、毎日行うあいさつや健康観察を行う。 ○朝の整頓ができると、子どもも学級も一日のよいスタートになる。持ち物の整理整頓を一日の始まりとして位置付ける。 ○和式トイレについて、立つ位置、紙の使い方などを教室で説明してから、トイレに行き、実体験できるようにする。
2日目	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・前日の指導の振り返り ・並び方 ・廊下の歩き方 ・チャイムの合図 ・帰りの準備 	<ul style="list-style-type: none"> ○前日の指導を振り返りながら繰り返し練習することで、やり方が身に付くようにしていく。 ○ゲームを取り入れながら、順番に2列に並ぶ練習をする。 ○チャイムの合図で生活の区切りがあることを知らせ、時計の針の位置を表示し、授業開始や終了の時刻と対応させることにより、時間を守らせる。 ○配布物は、一枚ずつ渡ったかどうかを確かめながら配り、連絡袋に入れさせる。
3日目	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・朝の会と帰りの会 ・学習の準備、片付け ・発表の仕方 ・給食 ○行事の始まり <ul style="list-style-type: none"> ・身体計測 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスみんなができるまで、多少待つことも一緒に覚えさせ、みんな友だちという気持ちも育てる。理解できている子には、友だちを手伝ったり教えてあげたりすることに喜びがもてるように声をかける。 ○保育所や幼稚園等での行事の経験を児童から聞いたり、行事の意図や小学校でのやり方を絵や写真などを使って分かりやすく伝えたりしながら、児童が理解し見通しをもって動けるようにする。

◆ 入学当初の教師の支援

保育所・幼稚園と小学校との間には、遊びを通して学ぶ学習から教科中心の学習に変わるため、段差があると言われます。幼児期から小学校入門期へのなめらかな接続を図るために、小学校では生活科の学習を中心にして、直接的・具体的なかかわりを大切にしたい指導を行います。

また、学校という社会では、お互いが気持ちよく過ごすためにいろいろなきまりがあります。1年生で身に付けたことがこれからの6年間の基礎になります。1年生には分かりやすく指導して、「きまり」を身に付けることを目標にします。そのためには、教師の言葉かけが重要になってきます。入学当初の1年生の期待と不安が入り混じった気持ちに寄り添いながら、肯定的な言葉かけをしていきます。

【学び】

- ・ 授業に飽きさせないために、45分の授業を短く区切ったり、他の教科の内容と関連させながら指導を行ったりして授業に変化をつける。
- ・ 簡単なクイズや手遊びなど、気分転換を図りながら楽しく学習させる。
- ・ 教科の授業の中で動作化を多く取り入れ、楽しく学習に取り組むことができるようにする。
- ・ 間違えても大丈夫な雰囲気づくりを大切に、肯定的に受け止める。



「先生がここに立ったら、お話をするときですから、目とおへそを先生の方に向けて、黙って聞きましょう。」
「忘れたときは、『忘れたので代わりに言ってください。』と言えばいいですよ。」
「時計の針が0になるまでに、次の時間の用意をして座りましょう。」

【人とのかかわり】

- ・ 自分の名前を言う機会を多くし、友だちの名前を自然に覚えられるようにする。
- ・ 朝、教室で出迎えたり、スキンシップをしたり、帰りの会でハイタッチをしたりすることで、教師との人間関係を築いていく。
- ・ 言葉による伝え合い（コミュニケーション）のためには、人の話を聞いたうえで、自分の話をする大切さを教える。
- ・ 相手意識をもたせ、集団の一員として責任をもった行動ができるようにする。
（例：廊下の歩き方、トイレの使い方、掃除の仕方、給食当番、係の仕事、机の上や中の整理の仕方、ロッカーの整頓、みんなで使う物の整頓 等）

「おはよう。今日も〇〇さんの元気な顔が見られて、うれしいな。」
「まっすぐ並べたね。最後まで口を閉じて体育館に行きましょう。」
「雑巾をきれいに洗ってふいているね。教室がきれいになったよ。ありがとう。」
「歌いたい気持ちはあるけど、今はまだ聞く時間よ。」



【元気な体】

- ・ うがい、手洗い、トイレの使い方、給食等、基本的な生活習慣が身に付くよう、繰り返し指導する。
- ・ 安全な遊具の使い方を知らせ、体を使って遊ぶ機会を多くする。



「休み時間の間に、トイレに行っておこうね。」
「真っ赤なトマト、甘くておいしいよ。」
「〇〇さんのまねをしてやってみよう。きっとできるよ。」

◆学習指導

小学校に入学すると、教科の学習が始まります。1年生が、安心して学習に取り組めるようにするためには、正しい学習習慣や学習のルールを身に付けることが大切です。小学校入学当初に身に付けてほしい学習規律を以下に示しています。

(1) 準備をする

- ① 前日に、2B鉛筆3～4本と赤青鉛筆を削り、消しゴムも用意する。
- ② 机の中を整頓し、すぐに出し入れできるようにする。
- ③ 休み時間の間に、次の授業の準備をする。
- ④ チャイムの合図で席に着く。
- ⑤ 机の上の学習用具は整頓して使う。
- ⑥ 下敷きを敷いて書く。



(2) 姿勢を正しくする

- ① 正しい姿勢で勉強する。
合い言葉は、「ぐう」「ぺた」「びん」「さっ」
- ② 鉛筆を正しく持って書く。
- ③ 両手で本を持って読む。



(3) よく聞く

- ① 終わりまで、口を閉じて聞く。
- ② 話す人の方を向いて、聞く。
- ③ 分からない時は、もう一度尋ねたり質問をしたりする。

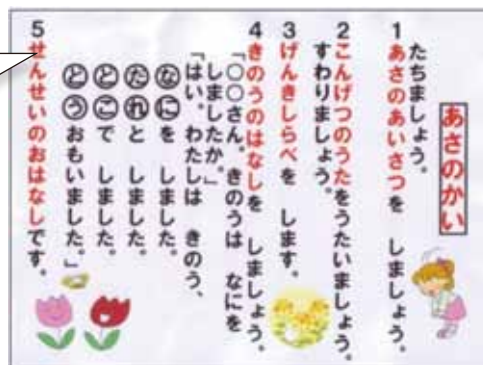
教室の前面に掲示し、意識付けます。



(4) はきはき話す

- ① 授業の始まりと終わりに、あいさつをする。
- ② 手を挙げ、指名されてから話す。
- ③ 名前を呼ばれたら、「はい。」と返事をする。
- ④ みんなに聞こえる声で、「…です。」と最後まではっきりと話す。

朝の会、帰りの会も活用して、話す・聞く練習をします。



◆安全指導

保護者が送り迎えをしてくれていた登降園が、小学校では自分で歩いて登下校するようになります。基本的に下校は、同じ方向に帰る1年生だけで、まとまって帰るようになります。帰る道が分からなくて困ることがないように、保護者に協力してもらい、練習しておくとう安心です。

(1) 入学前の登下校練習

- ① 入学説明会で、登下校の道順と交通ルールを確認するよう保護者に願います。
- ② 春休み中に、保護者と一緒に、通学路と安全を確認しながら歩く練習をしてもらう。

Q 「子どもだけでの登下校が心配です。近所の子もたちと一緒にいったりするのでしょうか。」
「低学年では集団下校をしてもらったら安心な気がします。」

A 健康で丈夫な体をつくり、“自分のことは自分です”のためにも小学校へは自分の足で歩いて登下校します。朝は、近所の上級生と誘い合ったり、兄弟がいる場合には一緒に登校したりするなど、工夫しているようです。また、下校については入学当初（4月～5月）はグループ下校を行い、途中まで教師と一緒に下校をしています。それ以降もできるだけグループごとにまとまって帰るようにしています。また、道路への飛び出し、危険な行為はしないなど、自分の命は自分で守れるようになることが大切です。雨の日も風が強い日もあります。幼稚園への送り迎えのときなどにも、子どもさんと通学路を歩いて、一人で安全に通学できるように道の確認などをお願いします。

下校を心配する保護者への返答の例。

(2) 1年生の下校指導

- ① 入学式当日、地図上の自宅がある場所に名前シールを貼ってもらう。
- ② 通学路を確認しながら、下校班を組む。
- ③ 下校時、下校班ごとに並び、教職員と共に交通ルールを確認しながら下校する。
- ④ 下校時刻と下校指導区間を連絡しておき、その後は保護者に願います。
- ⑤ 徐々に、引率する距離を短くしていき、児童だけで下校できるようにする。
- ⑥ 児童が学校を出発後、必要に応じて下校の様子を見て回る。

(3) 全校生対象の交通安全教室

- ① 学級会活動で、交通ルールの理解と実践を促すような話をする。
- ② 自転車と自動車のブレーキ制御実験を見る。
- ③ 登校班ごとに、横断歩道の渡り方を練習する。
左右の安全確認、手を挙げての横断
- ④ 防犯の合い言葉「いかのおすし」の説明を聞く。

いか…（知らない人について）いかない
の……（知らない人の車に）のらない
お…… 大きな声で叫ぶ
す……… すぐにげる
し………（何かあったらすぐ）しらせる

自宅のある場所にシールを貼ってもらいます。



交通安全教室で、自転車のブレーキ制御実験をしています。



- ⑤ 学級会活動で、交通事故防止への意識を高める話をする。

◆安全指導

小学校では、毎日、給食を食べることになります。1年生だけで配膳・片付けをしたり、保育所・幼稚園に比べ、約20分という短い時間で給食を食べたりすることになります。また、成長に合わせて給食の量も増えてきます。1年生が楽しく、そしておいしく給食を食べることができるような指導について、以下に示しています。

(1) 準備をする

- ① トイレをすませ、エプロン・帽子・マスクをつける。
- ② 手は石鹸をつけてよく洗い、清潔な手ふきでふく。
- ③ アルコール消毒をする。
- ④ 当番の人は、並んで給食室へ取りに行く。
- ⑤ 当番以外の人は、静かに座って待つ。
- ⑥ こぼさないように気を付けて、配膳する。



(2) マナーを守って食べる

- ① 感謝の気持ちを込めて、「いただきます。」「ごちそうさま。」を言う。
- ② 姿勢よく食べる。
- ③ 箸を正しく使って食べる。
- ④ お椀やお皿を持って食べる。
- ⑤ よくかんで食べる。
- ⑥ 好き嫌いせずに、きれいに食べる。



(3) 食べ物に興味をもつ (食育の日…… 毎月19日)

- ① 献立の中に入っている食材を見つける。
- ② 旬の野菜を見つける。
- ③ 郷土料理や行事食を知る。
- ④ 地場産物を知り、関心をもつ。



入学前、給食について心配する保護者に対する返答の例。

Q 「嫌いな食べ物がありますが、給食時間中に食べられない場合はどのようにになりますか。」
「子どもに食べるという苦痛は感じてほしくありません。」

A 小学校では健康な体をつくるためにも、食べ物の命をいただくという意味からも、偏食をしないで残さず食べるように指導をします。しかし、苦手な食べ物があるときには食べる前に量を調節し、少しずつ食べられるように工夫をしています。調子が悪いときに無理強いしたり、授業時間や放課後まで食べさせたりすることはしておりませんのでご安心ください。1年生の中には、「1年生になったから、嫌いな食べ物だけど一口は食べてみる。」と言って食べている子がいます。1年間を振り返り、できるようになったことが「嫌いな食べ物も食べられるようになったこと。」と答え、給食を通して自分自身の成長を感じた子もいました。また、1年生の保護者からも、苦手な食べ物を克服できるよう、家庭でも食べる練習をしているという話を伺っています。アレルギーや偏食など心配のある方は担任にご相談ください。

第4章
參考資料

1. 保育所保育指針と幼稚園教育要領の比較表

保育所保育指針（平成20年3月告示）	幼稚園教育要領（平成20年3月告示）
<p>第3章</p> <p>保育の内容</p> <p>1. 保育のねらい及び内容</p> <p>(1) 養護に関わるねらい及び内容</p> <p>ア 生命の保持 (ア) ねらい (イ) 内容</p> <p>イ 情緒の安定 (ア) ねらい (イ) 内容</p> <p>(2) 教育に関わるねらい及び内容</p> <p>ア 健康 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う。</p> <p>(ア) ねらい ① 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 ② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 ③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</p> <p>(イ) 内容 ① 保育士等や友達と触れ合い、安定感を持って生活する。 ② いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 ③ 進んで戸外で遊ぶ。 ④ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。 ⑤ 健康な生活のリズムを身に付け、楽しんで食事する。 ⑥ 身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でする。 ⑦ 保育所における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しを持って行動する。</p>	<p>第2章 ねらい及び内容</p> <p>健康 〔健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。〕</p> <p>1 ねらい (1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 (2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</p> <p>2 内容 (1) 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。 (2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 (3) 進んで戸外で遊ぶ。 (4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。 (5) 健康な生活のリズムを身に付ける。 (6) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でする。 (7) 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整える。</p>

- ⑧ 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。
- ⑨ 危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。

イ 人間関係

他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。

(ア) ねらい

- ① 保育所生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
- ② 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感を持つ。
- ③ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

(イ) 内容

- ① 安心できる保育士等との関係の下で、身近な大人や友達に関心を持ち、模倣して遊んだり、親しみを持って自ら関わろうとする。
- ② 保育士等や友達との安定した関係の中で、共に過ごすことの喜びを味わう。
- ③ 自分で考え、自分で行動する。
- ④ 自分でできることは自分でする。
- ⑤ 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- ⑥ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- ⑦ 友達の良さに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
- ⑧ 友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見だし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。
- ⑨ 良いことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。
- ⑩ 身近な友達との関わりを深めるとともに、異年齢の友達など、様々な友達と関わり、思いやりや親しみを持つ。
- ⑪ 友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気付き、守ろうとする。
- ⑫ 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。
- ⑬ 高齢者を始め地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ。

- (8) 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。
- (9) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。

人間関係

〔他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。〕

1 ねらい

- (1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
- (2) 進んで身近な人とかかわり、愛情や信頼感をもつ。
- (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

2 内容

- (1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
- (2) 自分で考え、自分で行動する。
- (3) 自分でできることは自分でする。
- (4) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- (5) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- (6) 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
- (7) 友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
- (8) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。
- (9) 友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。
- (10) 友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気付き、守ろうとする。
- (11) 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。
- (12) 高齢者をはじめ地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

- ⑭ 外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つ。

ウ 環境

周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

(ア) ねらい

- ① 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ。
- ② 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
- ③ 身近な事物を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。

(イ) 内容

- ① 安心できる人的及び物的環境の下で、聞く、見る、ふれる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。
- ② 好きな玩具や遊具に興味を持って関わり、様々な遊びを楽しむ。
- ③ 自然にふれて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- ④ 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つ。
- ⑤ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
- ⑥ 自然などの身近な事象に関心を持ち、遊びや生活に取り入れようとする。
- ⑦ 身近な動植物に親しみをもち、いたわったり、大切にしたり、作物を育てたり、味わうなどして、生命の尊さに気付く。
- ⑧ 身近な物を大切にする。
- ⑨ 身近な物や遊具に興味を持って関わり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。
- ⑩ 日常生活の中で数量や図形などに関心を持つ。
- ⑪ 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心を持つ。
- ⑫ 近隣の生活に興味や関心を持ち、保育所内外の行事などに喜んで参加する。

環境

[周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。]

1 ねらい

- (1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
- (2) 身近な環境に自分からかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
- (3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。

2 内容

- (1) 自然にふれて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- (2) 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。
- (3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
- (4) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。
- (5) 身近な動植物に親しみをもち、接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
- (6) 身近な物を大切にする。
- (7) 身近な物や遊具に興味をもってかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。
- (8) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。
- (9) 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。
- (10) 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。
- (11) 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。

工 言葉

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

(ア) ねらい

- ① 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
- ② 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
- ③ 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、保育士等や友達と心を通わせる。

(イ) 内容

- ① 保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとする。
- ② 保育士等と一緒にごっこ遊びなどをする中で、言葉のやり取りを楽しむ。
- ③ 保育士等や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみを持って聞いたり、話したりする。
- ④ したこと、見たこと、聞いたこと、味わったこと、感じたこと、考えたことを自分なりに言葉で表現する。
- ⑤ したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
- ⑥ 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
- ⑦ 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。
- ⑧ 親しみを持って日常のあいさつをする。
- ⑨ 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。
- ⑩ いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
- ⑪ 絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。
- ⑫ 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。

オ 表現

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

言葉

〔経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。〕

1 ねらい

- (1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
- (2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
- (3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。

2 内容

- (1) 先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。
- (2) したこと、見たこと、聞いたこと、感じたことなどを自分なりに言葉で表現する。
- (3) したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
- (4) 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
- (5) 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。
- (6) 親しみをもって日常のあいさつをする。
- (7) 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。
- (8) いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
- (9) 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。
- (10) 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。

表現

〔感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。〕

<p>(ア) ねらい</p> <p>① いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ。</p> <p>② 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。</p> <p>③ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</p> <p>(イ) 内容</p> <p>① 水、砂、土、紙、粘土など様々な素材にふれて楽しむ。</p> <p>② 保育士等と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。</p> <p>③ 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。</p> <p>④ 生活の中で様々な出来事に触れ、イメージを豊かにする。</p> <p>⑤ 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。</p> <p>⑥ 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりする。</p> <p>⑦ いろいろな素材や用具に親しみ、工夫して遊ぶ。</p> <p>⑧ 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。</p> <p>⑨ かいたり、つくったりすることを楽しみ、それを遊びに使ったり、飾ったりする。</p> <p>⑩ 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする楽しさを味わう。</p>	<p>1 ねらい</p> <p>(1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。</p> <p>(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。</p> <p>(3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、楽しんだりする。</p> <p>(2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。</p> <p>(3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。</p> <p>(4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりする。</p> <p>(5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。</p> <p>(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。</p> <p>(7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。</p> <p>(8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする楽しさを味わう。</p>
--	--

2. 小学校学習指導要領に示された目標と内容（第1学年関連部分を抜粋）

◆ 国語科（第1学年及び第2学年）

1 目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

1 目標

- (1) 相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。
- (2) 経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。
- (3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

2 内容

A 話すこと・聞くこと

(1) 話すこと・聞くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

- ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。
- イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。
- ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。
- エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。
- オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。

(2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

- ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。
- イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合っって考えを一つにまとめたりすること。
- ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡をし合ったりすること。
- エ 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。

B 書くこと

(1)書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

- ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。
- イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
- ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。
- エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。
- オ 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

- ア 想像したことなどを文章に書くこと。
- イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。
- ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。
- エ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。
- オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。

C 読むこと

(1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

- ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
- イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
- ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
- エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。
- オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。
- カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

- ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。
- イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。
- ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。
- エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。
- オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) 「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

ア 伝統的な言語文化に関する事項

(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(ア) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

(イ) 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。

(ウ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。

(エ) 長音、拗(よう)音、促音、撥(はつ)音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。

(オ) 句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。

(カ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。

(キ) 敬体で書かれた文章に慣れること。

ウ 文字に関する事項

(ア) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。

(イ) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。

(ウ) 第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

(2) 書写に関する次の事項について指導する。

ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。

イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。

◆算数科（第1学年）

第1 目標

算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年〕

1 目標

- (1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。
- (2) 具体物を用いた活動などを通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を重ね、量の大きさについての感覚を豊かにする。
- (3) 具体物を用いた活動などを通して、図形についての理解の基礎となる経験を重ね、図形についての感覚を豊かにする。
- (4) 具体物を用いた活動などを通して、数量やその関係を言葉、数、式、図などに表したり読み取ったりすることができるようにする。

2 内容

A 数と計算

- (1) ものの個数を数えることなどの活動を通して、数の意味について理解し、数を用いることができるようにする。

ア ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べること。

イ 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。

ウ 数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。

エ 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。

オ 2位数の表し方について理解すること。

カ 簡単な場合について、3位数の表し方を知ること。

キ 数を十を単位としてみること。

- (2) 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。

ア 加法及び減法が用いられる場合について知ること。

イ 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできること。

ウ 簡単な場合について、2位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。

B 量と測定

- (1) 大きさを比較するなどの活動を通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を豊かにする。

ア 長さ、面積、体積を直接比べること。

イ 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べること。

- (2) 日常生活の中で時刻を読むことができるようにする。

C 図形

第1 目標

(1) 身の回りにあるものの形についての観察や構成などの活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を豊かにする。

ア ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりすること。

イ 前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を正しく用いて、ものの位置を言い表すこと。

D 数量関係

(1) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする。

(2) ものの個数を絵や図などを用いて表したり読み取ったりすることができるようにする。

〔算数的活動〕

(1) 内容の「A数と計算」、「B量と測定」、「C図形」及び「D数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数的活動を通して指導するものとする。

ア 具体物をまとめて数えたり等分したりし、それを整理して表す活動

イ 計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして表す活動

ウ 身の回りにあるものの長さ、面積、体積を直接比べたり、他のものを用いて比べたりする活動

エ 身の回りから、いろいろな形を見付けたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりする活動

オ 数量についての具体的な場面を式に表したり、式を具体的な場面に結び付けたりする活動

〔用語・記号〕

一の位 十の位 + - =

◆ 生活科

第1 目標

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

1 目標

(1) 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持ち、地域のよさに気付き、愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。

(2) 自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心を持ち、自然のすばらしさに気付き、自然を大切にしたり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。

(3) 身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活することができるようにする。

(4) 身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し、考えることができるようにする。

2 内容

(1) 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心し

て遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心を持ち、安全な登下校ができるようにする。

- (2) 家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。
- (3) 自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。
- (4) 公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。
- (5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心を持ち、自分たちの生活を工夫したり楽しんだりできるようにする。
- (6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。
- (7) 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。
- (8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。
- (9) 自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。

◆ 音楽科

第1 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

第2 各学年の目標及び内容

[第1学年及び第2学年]

1 目標

- (1) 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育て、音楽を味わって聴くようにする。

2 内容

A 表現

- (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。

- ア 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりすること。
- イ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。
- ウ 自分の歌声及び発音に気を付けて歌うこと。
- エ 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。

(2) 器楽の活動を通して、次の事項を指導する。

- ア 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏すること。
- イ 楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏すること。
- ウ 身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。
- エ 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。

(3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を指導する。

- ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。
- イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。

(4) 表現教材は次に示すものを取り扱う。

- ア 主となる歌唱教材については、各学年ともウの共通教材を含めて、斉唱及び輪唱で歌う楽曲
- イ 主となる器楽教材については、既習の歌唱教材を含めて、主旋律に簡単なリズム伴奏や低声部などを加えた楽曲
- ウ 共通教材

[第1学年]

- 「うみ」(文部省唱歌) 林柳波 (はやしりゅうは) 作詞 井上武士 (いのうえたけし) 作曲
- 「かたつむり」(文部省唱歌)
- 「日のまる」(文部省唱歌) 高野辰之 (たかのたつゆき) 作詞 岡野貞一 (おかのていいち) 作曲
- 「ひらいたひらいた」(わらべうた)

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。

- ア 楽曲の気分を感じ取って聴くこと。
- イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。
- ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。

(2) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。

- ア 我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた、行進曲や踊りの音楽など身体反応の快さを感じ取りやすい音楽、日常生活に関連して情景を思い浮かべやすい楽曲
- イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、親しみやすい楽曲
- ウ 楽器の音色や人の声の特徴を感じ取りやすく親しみやすい、いろいろな演奏形態による楽曲

[共通事項]

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

- ア 音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。
 - (ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素
 - (イ) 反復、問いと答えなどの音楽の仕組み
- イ 身近な音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。

◆ 図画工作科

第1 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

1 目標

- (1) 進んで表したり見たりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。
- (2) 造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。
- (3) 身の回りの作品などから、面白さや楽しさを感じ取るようにする。

2 内容

A 表現

(1) 材料を基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。

- ア 身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくること。
- イ 感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること。
- ウ 並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせてつくること。

(2) 感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。

- ア 感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。
- イ 好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。
- ウ 身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し方を考えて表すこと。

B 鑑賞

(1) 身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。

- ア 自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見ること。
- イ 感じたことを話したり、友人の話の聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くこと。

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

- ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。
- イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

◆ 体育科

第1 目標

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

第2 各学年の目標及び内容

[第1 学年及び第2 学年]

1 目標

- (1) 簡単なきまりや活動を工夫して各種の運動を楽しくできるようにするとともに、その基本的な動きを身に付け、体力を養う。
- (2) だれとでも仲よくし、健康・安全に留意して意欲的に運動をする態度を育てる。

2 内容

A 体づくり運動

- (1) 次の運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようにする。
 - ア 体ほぐしの運動では、心と体の変化に気付いたり、体の調子を整えたり、みんなでかかわり合ったりするための手軽な運動や律動的な運動をすること。
 - イ 多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとったり移動をしたりするとともに、用具の操作などをすること。
- (2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- (3) 体づくりのための簡単な運動の行い方を工夫できるようにする。

B 器械・器具を使つての運動遊び

- (1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。
 - ア 固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下りをすること。
 - イ マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をすること。
 - ウ 鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をすること。
 - エ 跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りをすること。
- (2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- (3) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫できるようにする。

C 走・跳の運動遊び

(1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。

ア 走の運動遊びでは、いろいろな方向に走ったり、低い障害物を走り越えたりすること。

イ 跳の運動遊びでは、前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすること。

(2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

(3) 走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫できるようにする。

D 水遊び

(1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。

ア 水に慣れる遊びでは、水につかったり移動したりすること。

イ 浮く・もぐる遊びでは、水に浮いたりもぐったり、水中で息を吐いたりすること。

(2) 運動に進んで取り組み、仲よく運動をしたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりすることができるようにする。

(3) 水中での簡単な遊び方を工夫できるようにする。

E ゲーム

(1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。

ア ボールゲームでは、簡単なボール操作やボールを持たないときの動きによって、的に当てるゲームや攻めと守りのあるゲームをすること。

イ 鬼遊びでは、一定の区域で、逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどをする。

(2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

(3) 簡単な規則を工夫したり、攻め方を決めたりすることができるようにする。

F 表現リズム遊び

(1) 次の運動を楽しく行い、題材になりきったりリズムに乗ったりして踊ることができるようにする。

ア 表現遊びでは、身近な題材の特徴をとらえ全身で踊ること。

イ リズム遊びでは、軽快なリズムに乗って踊ること。

(2) 運動に進んで取り組み、だれとでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

(3) 簡単な踊り方を工夫できるようにする。

◆ 道 徳

第 1 目 標

道徳教育の目標は、第 1 章総則の第 1 の 2 に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的实践力を育成するものとする。

第 2 内 容

道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、次のとおりとする。

〔第 1 学年及び第 2 学年〕

主として自分自身に関すること。

- (1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。
- (2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。
- (3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。
- (4) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。

主として他の人とのかわりに関すること。

- (1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。
- (2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。
- (3) 友達と仲よくし、助け合う。
- (4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。

主として自然や崇高なものとのかわりに関すること。

- (1) 生きることを喜び、生命を大切にすることをもち。
- (2) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。
- (3) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ。

主として集団や社会とのかわりに関すること。

- (1) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切に使う。
- (2) 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。
- (3) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。
- (4) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする。
- (5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。

◆ 特別活動

第1 目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学級活動〕

1 目標

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

2 内容

〔第1学年及び第2学年〕

学級を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常の生活や学習に進んで取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。

〔共通事項〕

(1) 学級や学校の生活づくり

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全

- ア 希望や目標をもって生きる態度の形成
- イ 基本的な生活習慣の形成
- ウ 望ましい人間関係の形成
- エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解
- オ 学校図書館の利用
- カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

<〔児童会活動〕〔クラブ活動〕は省略>

〔学校行事〕

1 目標

学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

2 内容

全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。

(1) 儀式的行事

学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるような活動を行うこと。

(2) 文化的行事

平素の学習活動の成果を発表し、その向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするような活動を行うこと。

(3) 健康安全・体育的行事

心身の健全な発達や健康の保持増進などについての関心を高め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵（かん）養、体力の向上などに資するような活動を行うこと。

(4) 遠足・集団宿泊的行事

自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、人間関係などの集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと。

(5) 勤労生産・奉仕的行事

勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。

3. 参考文献

- ・文部科学省『幼稚園教育要領』教育出版, 2008
- ・文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍, 2008
- ・文部科学省『幼児理解と評価』ぎょうせい, 2010
- ・厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館, 2008
- ・香川県教育委員会『子育てハンドブック 3歳児のいいところミッケ!』, 2013
- ・香川県教育委員会『平成25年度 新しく教員になったみなさんへ』, 2013
- ・高松市, 高松市教育委員会『高松っ子いきいきプラン』, 2011
- ・東京都教育委員会『就学前教育カリキュラム』, 2011
- ・松本博雄, 第一そだち保育園
『子どもとつくる0歳児保育一心も体も気持ちいい』, ひとなる書房, 2011
- ・松本博雄, 常田美穂, 川田学, 赤木和重『0 1 2 3 発達と保育:
年齢から読み解く子どもの世界』, ミネルヴァ書房, 2012
- ・松本博雄『実践研究:「仲間とともに考える」五歳児保育をどうつくるか』ほか
(雑誌『現代と保育』ひとなる書房, 80-88号), 2011-2014
- ・心理科学研究会『小学生の生活とこころの発達』福村出版, 2009
- ・内田伸子『まごころの保育 堀合文子のことばと実践に学ぶ』小学館, 1998
- ・秋田喜代美『保育のおもむき』ひかりのくに, 2010
- ・倉橋惣三『育ての心 上・下』フレーベル館, 1976
- ・多湖輝『しつけの知恵』海竜社, 2001
- ・ロン・クラーク (亀井よし子訳)『あたりまえだけど、とても大切なこと
子どものためのルールブック』, 草思社, 2004
- ・明橋大二『子育てハッピーアドバイス』『同2』『同3』1万年堂出版, 2005-2006
- ・服部雅生『今日から明日へつながる保育』萌文書林, 2009
- ・森上史朗, 本田和子, 小田豊『倉橋惣三と現代保育』フレーベル館, 2008
- ・柏女霊峰『子育て支援と保育者の役割』, フレーベル館, 2003
- ・國分康孝監修『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる』, 図書文化出版, 1999

平成 25 年度 観音寺子どもすくすくプラン作成委員一覧

観音寺市就学前教育検討委員会 委員

氏 名	所 属	備 考
松本 博雄	香川大学教育学部幼児教育講座 准教授	委員長
中野 正司	観音寺市立観音寺東小学校 校長	副委員長
漆川 美千代	観音寺市立豊浜小学校 指導教諭	
松村 れいこ	観音寺市立柞田小学校 教諭	
澤田 智美	観音寺市立萩原小学校 教諭	
本田 恵子	観音寺市立観音寺幼稚園 園長	
久保 隆子	観音寺市立柞田幼稚園 園長	
入谷 寛枝	観音寺市立常磐幼稚園 園長補佐	
吉永 恵子	観音寺市立観音寺幼稚園 教諭	
安藤 加寿代	観音寺市立大野原幼稚園 教諭	
石井 俊子	観音寺市立東保育所 所長	
篠原 京子	観音寺市立東保育所 所長補佐	
大西 雅美	観音寺市立西保育所 主任	
合田 眞奈美	観音寺市立大野原保育所 所長補佐	
大西 生利子	観音寺市立豊浜保育所 主任	

(校種別 敬称略)

【平成 24 年度末転出職員】

野口 美和 (現三豊市立辻小学校教諭、平成 24 年度まで観音寺市立観音寺南小学校在籍)

事務局

氏 名	所 属	備 考
土井 久史	観音寺市健康福祉部子育て支援課 課長補佐	
高谷 健二	観音寺市健康福祉部子育て支援課保育所係 主任	
井上 英明	観音寺市教育委員会事務局教育総務課 課長補佐	
合田 博晃	観音寺市教育委員会事務局学校教育課 課長補佐	
小西 寛	観音寺市教育委員会事務局学校教育課 主任指導主事	

(職名は平成 26 年 3 月現在)